

## ティーチング・ポートフォリオ

— どのようにビジョンを共有し、自己変容を促す学びをデザインすればよいのか —

吉崎 亜由美

桐朋女子中・高等学校

キーワード：共有ビジョン、メンタル・モデル、チーム学習、システム思考、学習する学校

Teaching Portfolio

- How to share a vision and how to design learning to encourage self-transformation -

Ayumi Yoshizaki

Toho Girls' Junior & Senior High School

Keywords : Shared Vision, Mental Models, Team Learning, System Thinking, Schools That Learn



### 教育理念

自然や社会に目を向け、社会問題と解決策のつながりに  
気づき、行動できるように促す学習する学校をつくる

2021年 12月 26日作成 (第 26回大阪府立大学高専ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ)

## 目次

1	はじめに	15
2	教育の責任	15
3	教育の理念	15
4	目的、方法論	18
5	シラバス / 教材 (配布資料、課題) の説明	19
6	教育活動改善の努力	20
7	生徒・学生・同僚による評価と学習成果	23
8	学習する学校に向けた社会と連携した教育活動	25
9	短期 / 長期の教育目標	26
10	添付資料	
	添付資料 4-A 桐朋女子中・高等学校 教育目標、ブロック制 生活目標、学習目標	27
	添付資料 4-B TOHO GIRLS' GLOBAL EDUCATION- 桐朋女子のグローバル教育	28
	添付資料 5-A 高等学校地理 A、地理 B のシラバス	29
	添付資料 5-B 中学校地理、高等学校地理 B のレポート課題	32
	添付資料 6-A 高等学校地理実習配布資料	38
	添付資料 6-B 高等学校地理実習の写真、地域の方からの手紙	41
	添付資料 6-C PBL 生徒が制作したポスター	42
	添付資料 6-D T-Project の企画書と学習履歴図	43
	添付資料 6-E T-Project ポスター発表のルーブリック	47
	添付資料 6-F 全日本小中学校ダンスコンクール銀賞受賞、文化祭発表	48
	添付資料 6-G 『桐朋教育は入試から始まる』—2022 年口頭試問・受験生へのメッセージ—	49
	添付資料 6-H 日本教育学会発表 PBL を取り入れた高等学校地理の授業デザインと生徒の変容	51
	添付資料 6-I 教職員研修ファシリテーション基礎講座—想いや気づきをうながす問いづくり—	53
	添付資料 7-A 授業調査アンケート	54
	添付資料 7-B 授業観察レポート	55
	添付資料 7-C 授業見学用シート	58
	添付資料 7-D 国際ユース作文コンテスト受賞作品	60
	添付資料 7-E 受験生の保護者からの手紙	61
	添付資料 8-A NPO 日本 PBL 研究所 PBL メッセ 2021—激動の時代の PBL—	62
	添付資料 8-B NPO FENICS イベント 人間を育てるフィールド (ワーク) 教育	63
	添付資料 8-C NPO 開発教育協会『服・ファッション 開発教育アクティビティ集 5』	64
	添付資料 8-D SDGs for School に掲載 PBL フィールドで社会問題に出会う	65
	添付資料 8-E 桐朋女子中・高等学校 HP に掲載 地域×桐朋女子プロジェクト	67
	添付資料 8-F 東部公民館×桐朋女子連携企画	69
	添付資料 8-G DLP 異文化理解講座ワークシート	72
	添付資料 8-H 学校新聞山みず第 212 号「パンデミックから私たちは何を学ぶのか」	74
	添付資料 8-I ボランティア活動写真	77

## 1 はじめに

私がこのティーチング・ポートフォリオを作成する目的は、教科の教育活動や社会と連携した教育活動、研究研修を整理し、内省することで見えてきた教育理念と教育方法を広く教育関係者や地域の方々に公開し、意見を求めることにより、さらなる教育改善につなげることである。そして、教育理念である自然と社会に目を向け、社会問題と解決策のつながりに気づき、行動できるように促す**学習する学校**の輪が日本全国に広がることである。

## 2 教育の責任

私の担当科目は、主に中学校地理、高等学校地理である。また、年度によっては、中学校歴史・公民、高等学校歴史・公民科を担当することもある。

## 3 教育の理念

私が社会科の教員になった理由は、幼・小・中・高校生の時の経験にある。富山出身の両親に育てられた私は、大阪、福岡、鹿児島、静岡で幼少期を過ごした。家族が旅行好きだったこともあり、週末には、長崎、高千穂峡、阿蘇、霧島、指宿などの九州の雄大な自然にふれ、地域によって変化する自然や言語、食、歴史などの文化や生活習慣を肌で感じた。中学1年生で学んだ世界地理や英語の授業で、海外の自然や異文化への興味関心も高まり、将来は外国の言語や自然や文化を学び、その魅力を伝える地理の教員になろうと思った。一方で、小学校高学年と中学校2年生まで過ごした鹿児島と中学校から高等学校までを過ごした静岡の学校教育と地域社会に対する違和感が、私の教育理念の原点である。徳之島、奄美大島などの離島出身者も多く住む

ニュータウンにあった鹿児島の中学校では、毎朝、校門での生徒と教員週番による服装チェック、グラウンド3週のランニング、国旗掲揚、朝の清掃、昼の清掃、夏休みのラジオ体操も強制参加という画一的な教育が行われ、福岡で行われていた教育とは明らかに違った。ホームルームで班決めを行う際は、班長が立候補し、班員を1人ずつ発表していく。最後に、どの班の班長からも名前が上がりなかった生徒に対し、担任は、「なぜ、選ばれなかったと思うか？」とその理由を問う。そう問われた生徒は、クラス全員の前で自分の欠点を述べ、謝罪する。そして、ようやくその生徒は班に入ることができる。私は、この状況を当然のように受け入れる生徒に呆然とし、担任に嫌悪感を覚えた。私は担任に対して、「なぜ、生徒の人権を無視するのですか？」と問いたかった。しかし、私は、この教員と生徒の関係は特殊ではないと思った。2年間過ごした鹿児島の小学校の担任と生徒の関係性にも多くの共通点があり、この2校において画一的な教育が行われていた点も共通していた。次に、転学した静岡の中学校で私に用意されたのは、少年院に入っただけの生徒が使っていた穴だらけの机だった。1学年14クラスのマンモス校では、生徒によるいじめと教師による体罰、暴力がひどかった。教師は理由もなく生徒を殴り、校則違反だといってバリカンで男子生徒の髪を刈り、連帯責任と称して、規則を守らない生徒のいる班のメンバー全員に廊下の雑巾がけなどの体罰を行った。静岡弁を話す生徒たちは自分は標準語を話していると思っているようで、私の話すイントネーションを「聞いてられねえ」と言った。私は、彼らが「井の中の蛙」であることに驚いた。1980年代当時、静岡

県では、高校入試において男女差別があることは周知の事実であった。高校入学後も、女子は家庭科必修、男子は武道必修というカリキュラムにおける男女差別があった。私は、鹿児島県の中学でも、静岡県の中学、高校でも、教員による生徒の差別的な扱いに対して抗議した。高校では、家庭科の学習をボイコットするという行動に出たが、担任は「気持ちは分かるけれど」というだけで、差別が行われている状況を改善しようとはしなかった。静岡でも、生徒の人権を無視した教育を行う教員とそれに抗議せずに受け入れる生徒という構造は、全く変わらなかった。そして、周りの大人たちは自分の子どもたちが不利益を受けている状況を知りながら、何の行動も起こさなかった。

1980年代、南アフリカではアパルトヘイトによる黒人差別が続いていた。私は、南アフリカで起こっていることと日本の教育現場で起こっていることは、差別、暴力、それに対する周囲の無関心という点で、全く同じ構造だと思った。「どうしたら、こんな差別が続く社会を変えることができるのか。教育にはその可能性があるのか。」という想いから、また、「ここから逃げ出したい」という気持ちから、私は東京の大学に進学した。卒業から3年後、教員免許の取得のため母校で教育実習を行った際、中学校の同窓生に話す機会があった。私が「あの中学、大変だったよね。」と話しかけると、彼女は「何のこと？」と驚いた表情で私を見たのを覚えている。同じ女性で、同じ高校で過ごし、東京の大学に進学し、教育実習に参加する人なら、あの中学の状況が異常であることに共感してくれるのではないかと考えていた私の予想は、甘かったことになる。限定された環境の中で過ごしてきた人にとっては、それが異常

な環境であってもその異常さに気づくことができないのか。それとも、大学教育では、批判的な思考力、分析力、内省する力、課題を解決する力が身につかないのか。一方、私自身は、中学校・高等学校のつらい経験は無駄ではなく、レジリエンス(折れない心)、批判的な思考力、共感共苦の力が身についたと感じている。また、大学で東南アジアをはじめとした海外でのフィールドワークを重ね、異文化理解、行動力、観察力、**システム思考**(現実を広く深く、俯瞰し、つながりと思い込みに気づく力)が身についた。教育現場において、このような力を獲得するためには、どのような教育を行えばよいのか、これが私が追い求めてきた問いである。

大学や大学院では、東南アジアのタイをフィールドに「ナショナリズムと宗教・道徳教育」、「経済開発と統合型の経験カリキュラム」などをテーマに、比較教育学の視点から、社会と教育に関する研究を進めた。東南アジア研究を続ける中で、「差別と教育」という視点に、「開発と教育」「格差と教育」という経済的な視点が加わった。東南アジア、南アジア、西アジア、オセアニア、アメリカなど、さまざま地域でフィールドワークを続けながら、日本で発信される情報に偏りがあることに気づき、日本全体が「井の中の蛙」になっている状況に気づいた。私自身、大学での学びで、180度価値観が変わったと感じている。この経験から、書籍やマスメディア、インターネットからの情報だけでなく、フィールドワークから得られる本物の情報にふれることが、重要であることに気づいた。博士課程に進まず、教員になることを決めたのは、**真実**はフィールド(現場)にあり、「差別や格差が続く社会を教育により変え

ることができるのか。開発と教育の課題をどのように解決すればよいのか。」という問いに対して現場で実践することにより解決したいと考えたからである。

1980年代～1990年代、「差別と教育」「格差と教育」「開発と教育」という視点に目を向け、教育実践を行う人は少なかった。教育現場で、問いによる授業デザインや参加型授業、教科横断型授業、地域と連携した教育実践は、生徒からも教員からも理解されなかった。2000年代になり、MDGsやSDGs、ESDといった差別、格差、開発という地球規模の課題を世界的に解決しようとする動きが日本にも浸透してきた。若い世代を中心に、SDGsに興味を持つ人が増えている。私が実践し続けてきた、問いによる授業デザインや参加型授業、教科横断型授業、地域と連携した教育実践は、文部科学省でも奨励される教育方法となった。「差別や格差が続く社会を教育により変えることができるのか。開発と教育の問題をどのように解決すればよいのか。」という課題の解決は、2022年度から施行される学習指導要領においてその理念や教科の目標となった。私は、今、それを実現するチャンスだと捉えている。そして、生徒と教員の壁、教員同士の壁、教科の壁、学校と地域の壁などの学校の内外にあるさまざまな壁を溶かしていくことが、その解決策の第一歩であると考えている。

私は、日本や世界の課題を解決するための概念には公正・共生・循環があると考えている。そして、私の教育理念は、公正・共生・循環の概念から、**システム思考**により、自然や社会に目を向け、社会問題と解決策のつながりに気づき、行動できるように促す**学習する学校**をつくることである。なぜなら、社会の課題に無関心な層が増え、

その課題を放置したまま、政治や経済を特定の人に任せきりにすると、気がついた時には取り返しのつかない事態に陥ることを歴史が証明しているからである。日本では、国民が軍部の暴走をとめることができず、太平洋戦争に突入し、世界や日本で多くの尊い命が失われた歴史がある。2021年も、気候変動による自然災害が国内外で多発し、多くの命が失われた。また、コロナウイルス感染症に対する政府の無策により、健康保険を払っている市民が医療を受けられないまま、自宅でなくなった。コロナの感染拡大と自然災害の発生は無関係ではない。この2点は、豊かさを求める経済開発と地球の循環のバランスが崩れたことにも起因している。経済開発による動物と人間の住むエリアの境界がなくなったことで、動物由来のウイルスが人間にも広まり、パンデミックとなっている。そして、地球温暖化により、熱帯の感染症がそれ以外の地域に広まっている。

**システム思考**を使うと、個人の課題や学校の課題、社会課題の原因と解決策のつながりに気づくことができる。また、どのような社会を一緒につくっていくのがよいのか、国内外の人と共に考えることができる。これは、人口減少社会に入った日本において、また、コロナ禍で顕著になった格差や差別、孤独の問題に対する希望になると考えている。私は、この目標を達成するためには、**学習する学校**をつくる必要があると考えている。その理由は、公正・共生・循環という概念は、閉ざされた学校の中だけでは学ぶことはできず、学習者が、地域の中で、チームで協働しながら、経験的な学びを通して理解できる概念だからである。**学習する学校**の5つの原則は、アメリカの経営学者ピーター・M・セ

ングによって示された**自己マスタリー、共有ビジョン、メンタル・モデル、チーム学習、システム思考**である。この原則を使いながら、学校と地域の壁をなくし、教員や生徒、保護者や卒業生、地域の方と連携しながら**学習する学校**をつくっていきたいと思う。

## 4 目的、方法論

### a. 目的

3で掲げた自然や社会に目を向け、社会問題と解決策のつながりに気づき、行動できるように促す**学習する学校**をつくるという教育理念を実現するためのステップ1は、自律学習者を育てる「**学習する教室**」をつくることである。私は、授業やホームルーム活動、部活動、受験指導などにおける学習する教室に関わったすべての生徒に、以下にあげる3つの力を身につけてもらいたいと考えている。これは、所属機関である、桐朋女子中・高等学校の教育目標である「創造力あふれる女性の育成」やAブロックの生活目標、学習目標である「自律学習者を育てる」、グローバル教育の目標である「違いを越えて繋がる力を持ち、異なった背景を持つ人に共感し、協働できる人」という本校のグローバル時代を創るリーダー像にも重なるところがある。また、「これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」という中学校、高等学校学習指導要領前文にも重なるところがある。(添

付資料 4-A 桐朋女子中・高等学校 教育目標、添付資料 4-B TOHO GIRLS' GLOBAL EDUCATION- 桐朋女子のグローバル教育)

- 世界の複雑性を知り、それを理解するための幅広い知識と実践の総体である**システム思考**を使うことで、世界の相互依存性や変化をよりよく理解することができる。
- **システム思考**により世界の課題の解決策となる概念として、公正、共生、循環があることを理解する。
- **チーム学習**による対話やディスカッション、相互支援を通して、社会問題の解決策に気づき、行動することができる。

### b. 方法論

自律学習者を育てる**学習する教室**をつくるために、以下の5つの方法を生徒と教員に身につけてもらいたいと考えている。これは、所属機関である、桐朋女子中・高等学校の教育方法である「個性の尊重」と”Learning by doing ~”や前述の教育目標とも重なる。(添付資料 4-A 桐朋女子中・高等学校ブロック制 生活目標、学習目標)

- **自己マスタリー**という個人的なビジョンを明確にし、進む方法を示す。
- **共有ビジョン**という集団のビジョンを明確にし、進む方法を示す。
- 振り返りと探究のスキルである**メンタル・モデル**により、内省的に思考する。
- **システム思考**を使いながら、対話やディスカッションを通じた**チーム学習**を行うことで、集団的な思考のあり方を変化させ、メンバーの知性や能力を引き出す。
- 教員はファシリテーター、アドバイザー、コーディネーターとして**チーム学習**を進め、質問やアドバイスをを行いながら、生徒の自律学習を支援し、励ます。

## 5 シラバス / 教材の説明

自律学習者を育てる「学習する教室」は、文部科学省で定められた教科教育においても行われる。2013年～2021年に担当し

た授業科目を図1に示す。(添付資料5-A 高等学校地理A・地理Bのシラバス、5-B 中学校地理・高等学校地理Bのレポート課題)

図1

担当年度	科目名	週あたりの時間	学年
2013、2018、2021	中学校地理	4時間	中学校1年
学習の到達目標 地形図の読み方、身近な地域と日本や世界の地理に関する学びを通して、地理的なものの見方、考え方の基本を習得する。前期は武蔵野巡検、後期は都内見学を行い、観察したり、聞いたりしたことをもとに、事後にレポートをまとめることで、レポート作成の基礎を学ぶ。			
担当年度	科目名	週あたりの時間	学年
2014	中学校歴史	3時間	中学校2年
学習の到達目標 日本の歴史を中心に、旧石器時代から現代までの歴史に関する学びを通して、大きな日本の歴史の流れを把握し、原因や結果、影響を考える歴史的な思考力を養う。前期は郷土資料館、博物館、後期は歴史博物館を見学し、レポートを作成することで、生徒自らが課題を設定し、調査してまとめる力を養う。			
担当年度	科目名	週あたりの時間	学年
2015、2017、2020	中学校公民	3時間	中学校3年
学習の到達目標 憲法、政治、経済について、グループワークや模擬裁判、模擬投票などの経験的な学びを通して、知識を活用する力を養う。また、総合的な学習の時間と連携し、ゲストスピーカーによる講演会やワークショップなど、実在する人物からの本物の学びを通して、広い視野から分析し、理解、考察を深める態度を養う。前期は新聞記事を読み、後期は社会科見学を見学し、社会のしくみを理解し、公民としての適切な判断力を養う。			
担当年度	科目名	単位数	学年
2016	現在社会・日本史A・世界史A	4単位	高等学校1年
学習の到達目標 戦後史を政治、経済それぞれの視点から学び、理解を深め、平和や人権を尊重し、国際社会で共生していく方法を探る。現代社会の諸問題から、テーマを選んで調査研究し、レポートを作成したり、資料を作成したり、プレゼンテーションを行うことで、情報を適切に収集し、批判的に分析する力を養う。メディアリテラシーを身につけ、答えのない現代社会の問題に対して、自分の意見を持ち、議論する力を養う。			
担当年度	科目名	単位数	学年
2016-2021	地理B	4単位	高等学校2年
学習の到達目標 世界の自然環境、農林水産業、鉱工業などの系統的な学びを通して、基本的な知識を獲得し、読図や統計の読み方の基礎を学ぶ。前期は、世界の自然環境、農牧業、食文化、世界遺産などを調査し、机上旅行レポート作成することを通して、知識の活用と探究を行う。後期は、浅草橋・合羽橋の間屋街や六本木の再開発地区のフィールドワークを通して、景観を観察する方法を学び、レポートにまとめる力を養う。			
担当年度	科目名	単位数	学年
2016-2021	地理A	2単位	高等学校3年
学習の到達目標 統計地図、地形模型の作成、GISの活用を通して地図や統計処理の基礎を学ぶ。世界の自然環境、農牧業、食文化、世界遺産などを調査し、机上旅行プレゼンテーションや国際コース作文コンテストに向けたエッセイの作成、ディスカッション、プロジェクト学習を通して、自ら問いを立て、持続可能な開発とは何かを考える力を養う。			
担当年度	科目名	単位数	学年
2018-2020	地誌	2単位	高等学校3年
学習の到達目標 世界の諸地域を地形や気候などの自然環境、産業、人口問題、都市問題などの諸課題、生活文化、宗教などの民族などの幅広い視点から学び、地域の特性や課題について考察する。そして、大学入試に対応できる力を養う。			
担当年度	科目名	単位数	学年
2004-2019	地理実習	1単位	高等学校1～3年
学習の到達目標 八ヶ岳高原寮に4泊5日宿泊し、測量実習、水質調査、気象観測、農家訪問、観光調査、工場見学、信玄堤見学などのフィールドワークやチーム学習を通して、地理に必要な調査方法、研究方法を学び、プレゼンテーションスキルやレジリエンス、チームワークの力を身につける。			

## 6 教育活動改善の努力

### (1) 社会と連携したグローバルシティズンシップ教育と学習する学校

中学校公民、高等学校公民科、地理歴史科、総合的な学習の時間を活用して、グローバルシティズンシップの育成というビジョンに向かって、社会と連携しながら参加型の**チーム学習**を進めている。2013年～2019年に行った教育活動を図2に示す。

なお、図2の参画の段階とは、アメリカの環境心理学者ロジャー・ハートの「参画のはしご」によって示された子どもの自主性と協働性が保障される度合いを指す。教科を越えた教育活動を通して、生徒や教員、地域の方々も、社会と連携した**学習する学校**における子どもの参画の保障について経験をを通して理解を深めることができる。

図2

	教育活動	参画の段階	概念
中学 1年	ボランティア活動（地域清掃）	役割参画	共生
	防災活動 防災食試食・水の試飲	役割参画	共生・循環
中学 2年	映画「世界の果ての通学路」の視聴	役割参画	共生・公正
	岩附由香さん（NPO ACE 代表、C20 議長）他による講演	役割参画	共生
	八ヶ岳合宿有機農業体験・井上能孝さん（井上農場代表）による講演	役割参画	循環
	ボランティア活動（地域清掃）	役割参画	共生
中学 3年	東北旅行 東日本大震災経験者による講演・震災列車他	役割参画	共生・循環
	橋本笙子さん（ADRA Japan）災害ボランティア（ちくちくボランティア）	役割参画	循環
	防災活動 防災食配布・試食	役割参画	共生
	石岡史子さん（NPO ホロコースト教育センター）による講演「ハンナのかばん」	役割参画	公正
	ハンセン病元患者（東京弁護士会）による講演	役割参画	公正
	刑事模擬裁判（東京弁護士会）	意見参画	公正
	模擬議会 5つの委員会に分かれ、5つの議題について議論する	意見参画	共生
模擬選挙 クラス員会主催（調布市選挙管理委員会協力）	共同決定の参画	共生	
高校 1年	久保田弘信さん（戦場カメラマン）による講演	役割参画	共生・公正
	瀬谷ルミ子さん（NPO Reach Alternative 代表）「平和構築活動」講演	役割参画	共生・公正
	模擬国連 生徒1人1人が各国大使となり、気候変動について議論する	意見参画	循環・公正
	八ヶ岳合宿コース別活動 有機農業体験と調理実習	意見参画	循環
	選挙啓発ボランティア クラス委員会主催（調布市選挙管理委員会協力）	共同決定の参画	共生
高校 2年	模擬選挙 NPO 僕らの一歩が日本を変える主催（調布市選管協力）	役割参画	共生
	選挙啓発ボランティア クラス委員会主催（調布市選挙管理委員会協力）	共同決定の参画	共生
	酒向正春さん（リハビリ病院院長）による講演「パンデミックから私たちは何を学ぶのか」	意見参画	共生・公正
	電気通信大学留学生による DLP 異文化理解講座	意見参画	共生
高校 3年	選挙啓発ボランティア 社会科主催（調布市選挙管理委員会協力）	役割参画	共生
	模擬選挙 生徒会主催（調布市選挙管理委員会協力）	共同決定の参画	共生
	椎野若菜さん（社会人類学者）による講演「フィールドで社会問題と出会う」	意見参画	共生・公正
	アムネスティインターナショナルによるワークショップ「ジェンダー」	意見参画	共生・公正
決定者 講座	橋本笙子さん（ADRA Japan）災害ボランティア（ちくちくボランティア）	役割参画	共生・循環
	災害ボランティア（ちくちくボランティア）生徒有志主催	共同決定の参画	共生・循環
	ボランティア活動（地域清掃）生徒有志主催	共同決定の参画	共生・循環

## (2) 桐朋学園八ヶ岳高原寮における地域と連携したフィールドワーク教育と学習する学校

高原寮教育構想委員として、所属教育機関が所有する八ヶ岳高原寮を活用したフィールドワーク教育のための教員研修を行った。また、中学校2年生、高等学校1年生の八ヶ岳合宿において、地域の農家と連携した収穫体験や調理実習、農家の方の講演を通して、循環型農業である有機栽培に対する理解を深め、エシカルコンシューマーとしての消費者教育を行った。2004年度から、八ヶ岳高原寮に4泊5日宿泊しながら、地域と連携した文理融合型の「地理実習」を行っている。(添付資料6-A 高等学校地理実習配布資料、6-B 高等学校地理実習の写真、地域の方からの手紙)

## (3) 高校地理Aにおける自律学習者の育成を目指した学習する教室の授業デザイン

高等学校3年生対象の地理Aは、2018年度から自律学習者の育成を目指したプロジェクト学習(PBL)に向かったシラバスに大きく変更した。国際ユース作文コンテストへの応募による外部評価、統計分析と統計地図の作成、机上旅行プレゼンテーションにおけるルーブリックによる自己評価、相互評価など、個別学習と**チーム学習**を融合した学習する教室の授業デザインで進められる。また、生徒は地形模型の作成とフィールドワークやフィールドワーカーをゲストに迎えたフィールド学習を通して、調査方法、研究方法を学ぶ。「世界のウチナンチュ」、「服・ファッション」「スマホから考える世界・わたし・SDGs」などの教材を使い、**システム思考**による社会課題のつながりに気づき、公正・共生・循環の概念を使って社会課題の解決策を考

えるワークショップを行った。シラバスの最後に、PBLの企画書と学習履歴図を使って自ら問いを立て、自分にとって、周りや社会にとってのプロジェクトの価値やプロジェクト学習によって身につけたい力を考え、プロジェクトのゴールに向かって自律学習を進めるプロジェクト学習を行った。最後の授業は、準備、発表の順番、タイムマネージメント、質疑応答、ルーブリックによる自己評価、相互評価をすべて生徒が行うポスター発表を通して、自然や社会に目を向け、社会問題と解決策のつながりに気づき、行動できる生徒に成長した。(添付資料6-C PBL生徒が制作したポスター、6-E プレゼンテーションのルーブリック)

## (4) 自律学習者の育成を目指した学習する学校とカリキュラムの開発

2018年～2021年に地理Aで行ったプロジェクト学習(PBL)の教育実践が、2025年から中学3年生と高校1年生の異年齢によるクラス編成によるT-Project(Toho Project-Based Learning)としてスタートする。2022年度から2024年度までは、高等学校1年生のみで行う。プロジェクトの企画書を添付資料6-D、T-Projectで活用するルーブリック評価を添付資料6-Eに示す。T-Projectでは、生徒はPBLの企画書を書くことで**自己マスター**による個人のビジョンを示し、集団のビジョンを共有しながら、異年齢による**チーム学習**を進める。生徒は、学習履歴図により、毎時間、振り返りを行い、内省する。教員はファシリテーターとして、質問やアドバイスをしながら生徒の学習を支援し、励ます。生徒は、自ら問いを立て、自ら身につけたい力とゴールを示し、プロジェクトの価値(自分にとっての価値/周りの人や社会にとっての価値)を考える。生徒は、イ

インターネットや書籍、論文からの情報だけでなく、フィールドに出て、実在の人物から情報を得ることで、複雑な社会の構造や変化に直面する。自ら立てた問いとゴールに向かって、**システム思考**を活用しながら、**チーム学習**による対話やディスカッション、相互支援を通して、社会問題の解決策に気づき、行動することができるようになることが期待される。T-Project を通して、桐朋女子中・高等学校は、**学習する学校**として、地域社会と連携しながら、学びの共同体の『<sup>こしき</sup>穀』(ハブ)になることが期待される。

#### (5) クラス、部活動におけるチーム学習とリーダーシップの育成

ホームルーム活動においては、1994年から2000年、2004年から2019年までの計23年間、中学1年生から高等学校3年生までの担任として、生徒の個性を尊重し、生徒の**自己マスタリー**を共有し、夢を応援する学習する教室を目指した関係づくりを進めた。また、マインドフルネスやマインドセット、コミュニケーションなどの**チーム学習**を行い、自分のことと向き合う、「こころの健康、からだの健康」を実践してきた。

部活動においては、1994年から2000年バドミントン部顧問、2004年から2016年、2020年ダンス部、2017年放送部、2018年から2021年社会歴史研究部の顧問を務め、**学習する教室**をつくり、生徒の主体的なクラブ運営を支援してきた。コンクールに向けた創作ダンスのテーマ決めの際は、ダンス部の顧問として**システム思考**で見えてきた社会の課題をどのようにダンスで表現すればよいのかをチームで考えた。創作ダンスのテーマは、酸性雨や鳥インフルエンザ、原爆をなど多岐にわたる。**自己マスタリー**、**共有ビジョン**という個人

とチームの目標を共有し、**チーム学習**を重視した練習や作品づくりには、「学習する教室」の方法が有効である。**システム思考**と学習する教室の方法をうまく活用できた年は、全国大会や私学大会で受賞するなどの成果をあげた。(添付資料6-F 全日本小中学校ダンスコンクール銀賞受賞、文化祭発表)

#### (6) 入学試験におけるシステム思考の活用

所属機関である桐朋女子中・高等学校では、「桐朋教育は入試から始まる」という方針がある。つまり、桐朋教育における入試は入学者選抜であるだけでなく、学習の機会であると捉えているのである。この方針に従い、入学試験も**システム思考**で作問している。受験生は入学試験を解きながら、社会問題のつながりや解決策について、**システム思考**を用いながらその解決策に気づく。2021年度の社会科の入試においては、「国際交流」「移民」をテーマに、多文化共生のあり方を考える問題を作成した。また、2022年度の口頭試問においては、「消滅危機言語」をテーマに、言語と民族、文化、自然環境、経済、歴史の視点から、多文化共生や自然と人間の共生を考える問題を作成した。(添付資料6-G 『桐朋教育は入試から始まる』—2022年度口頭試問・受験生へのメッセージに掲載)

#### (7) 教育に関する学会 / 研究会への参加

a. 比較教育学会、日本ESD学会、日本教育学会、異文化間教育学会、異文化コミュニケーション学会などに所属し、研究成果の発表を行い、受けた質問やフィードバックを授業改善やカリキュラム開発、次の研究につなげている。(添付資料6-H 第80回日本教育学会発表 PBLを取り入れた高等学校地理の授業デザインと生徒の変容)

- b. 日本語教師養成講座（ヒューマンアカデミー）、防災、国際理解教育、情報・メディア教育などの研修（東京私立中学高等学校協会）、フューチャーファカルティプログラム（東京大学）、PBLアドバイザー養成講座（日本PBL研究所）、IBDPコーディネーター（International Baccalaureate）、教員研修基礎1基礎2基礎3（つくば言語技術教育研究所）、21世紀のリーダーシップ開発（早稲田大学履修証明プログラム）、ファシリテーション講座2021（開発教育協会）などを受講し、学んだ知識やスキルを教育活動や学内の教職員研修に活かしている。
- c. 千葉大学博士課程人文公共学府において、地域と連携したカリキュラム開発と所属教育機関で行ってきた教育活動の成果と検証をまとめた論文を執筆し、発表している。

**(8) 研修・研究会の開催と教育支援**

- a. 安全対策委員会の主任、および保安副委員長として、小、中・高、短大、事務局と連携しながら教職員向け『防災マニュアル』を作成し、合同防災訓練、避難訓練を行った。併せて、教職員向け『防犯マニュアル』及び生徒向け『防災マニュアル』を作成し、救急救命訓練などの防災学習や個人の防災袋の設置を推進し、防災というビジョ

ンに向かって**チーム学習**を行い、自助、共助、公助など、生徒、保護者、教職員一人ひとりの防災意識を高めた。

- b. 学習指導部主任として、授業見学用シートや授業参観ゾーン、授業研究を利用した授業力向上の取り組みに加え、アクティブラーニング、ICTを活用した授業など教員研修による**チーム学習**を進め、学校の教育改善に取り組んだ。
- c. 新教育課程委員、T-Project委員、研究研修委員として、新カリキュラム研究会を開催し、ループリック6種を作成し、PBL（プロジェクト学習）、ファシリテーション講座など教職員研修による**チーム学習**を進め、T-Projectに向けた教育改善に取り組んでいる。（添付資料6-I 教職員研修ファシリテーション基礎講座）

**7 生徒・学生・同僚による評価と学習成果**

**(1) 生徒による評価**

毎年9月～10月に行われる授業調査アンケートでは、「あなたにとってこの授業の満足度を教えてください。」という問いに対して、5.とても満足、4.満足、3.普通、2.やや不満、1.大いに不満の5段階で解答し、その理由を記述する。図3に、アンケートが行われるようになった2016年度からの生徒の解答の平均値とその主な理由を示す。

図3

授業の満足度	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
中学校 地理			3.6	3.8		4.1
中学校 公民		4.1			3.6	
高等学校 現代社会	3.9					
高等学校 地理B	3.8	3.9	4.2	4.2	4.2	4.2
高等学校 地理A	4.5	4.4	4.4	4.4	4.8	4.2
高等学校 地誌			4.6	4.7	5	

2021年中学校地理の評価は、「自分のことと結びつけて考えながら授業を受けられるので分かりやすい。」「わかりやすく説明してくれて、プリントやオンラインも用いて授業をしてくれている。」「先生からのメッセージやコメントで自分のどこが良いのか悪いのか、今後どうすればよいのかがすごくわかります。これからもコメントなどを書いていってくれるとうれしいです。」「いつも明るく、楽しく授業を進めてくださるので楽しく楽しいです。」「個人的には苦手な教科だが、授業内容が良い。」「白地図の作業などがすごくためになる。」「かいぜん点などを一緒に考えてくれた。」「先生が一人ひとりのことを考えてくれている。優しい。」「難しいことが多いが、段々分かるようになってきた。」

2021年高等学校地理Bの評価は、「最近少しずつ地理が楽しいと思えるようになってきた。」「一方的な授業ではなくて楽しい。」「質問されて説明する形式の進め方が多いのでその分授業に集中でき、内容理解ができやすく、復習する際にも思い出しやすいように感じる。そして自分の知らなかったことを多く知ることができる。」「授業内では写真などを駆使して興味を持たせてくれる。」「丁寧で分かりやすい。」「授業が参加型で、理解できないときは一度止まってくださるので、助かる。」「表や図を多用した授業で分かりやすい。」「分かりやすく、説明が頭に入ってくる。」「最初は、どんどんあてられて答えるという形式に慣れなかったけれど、最近慣れてきて授業も楽しいと感じるようになってきた。フォトランゲージなどの今までやったことのない授業形式ばかりで面白い。」「苦手ながらも自分で述べる力を無理やりでもつけられるし、毎回の授業でたくさん考えさせられ

る。」「みんなで考える授業が面白い、質問が飛んでくるので寝ない、導入の時に写真を見るのが面白い、その写真から地域の特徴がわかる、授業が始まる時に前回の復習があるのが良いです！」

2021年高等学校地理Aの評価は、「この授業を受けないと知らなかったことが知れた。」「グループディスカッションや、プレゼンテーション、実習等、行動しながら学べる。将来に役立つ情報を学べる。」「色々なテーマについてクラスメイトの意見をきくことができ、ためになると思う。」「自分の知らなかった場所でどんな問題が起こっているのか知れて、興味深い授業だなと思った。」

2020年高等学校地誌の評価は、「参加型の授業で、分かりやすく印象にも残りやすかった。」「1つの事に対して多角的な角度で説明してくれたので、色んな事が繋がって分かりやすかった。」「対話型の授業で学びが深まったから。授業で多くのことを吸収できると感じた。」「スライドや地図、統計などを駆使して学習するスタイルで視覚的に学ぶことができました。気候や工業、民族、歴史など様々な視点から世界を知れる、考えられるのは地理だけだと思うので、地誌の授業を取って良かったです。また、少人数で全員で協力して学んでいったことがとても楽しかったです。」「とても楽しく、理解しやすい授業でした。」「積極的に質問できる雰囲気よかったですと思います。他の教科ではどうしても受け身になりがちなので、吉崎先生の授業はとても新鮮で楽しかったです。」（添付資料7-A 授業調査アンケート）

## (2) 東京大学教育学部学生による授業観察レポート

2018年の高等学校地理Bの授業観察レ

ポートによると、「この授業の先生は質問を多くすることや、ワークに対して生徒に考えてもらうことを大事にしていた。先生にあてられた生徒はすぐに答えたり、わからなければ少し前に戻って答えを探したりして、答えることに対して全く当惑せず必ず答えていた。この学校の方針は生徒の自主性を養うことであり、校風は自由なものだった。その自主性が授業にも表れており、また授業が自主性を養う場にもなっていると考えられる。答えることを特別な場として考えていないと思われる。しかし、この授業で記述を書くためのヒントを与えていたように、考える上で生徒が分からないと感じた時にうまくヒントを与え、答えを自分で組み立てることのできるようになる必要があると考えている。」(添付資料 7-B 授業観察レポート)

### (3) 同僚による評価

2018年の中学校地理の授業見学シートによると、「生徒が自分なりにノートをまとめていたのが印象的だった。写真を多く使っている授業なので、生徒が興味をもちやすい。生徒はグループごとに座っていたが、黒板に背を向けても、タブレットで授業のパワーポイントが見えるので、姿勢がつかない。自分の授業では、生徒は板書を写すだけになりがちなのでいつも工夫したいと考えつつも、授業時間が足りないのが難しい。来年度から生徒がタブレットを持ち始めるので、どんな授業展開を考えられるか参考にさせていただきます。」と生徒が主体的にノートをとることができていること、フォトランゲージを授業で活用していること、先取りしてタブレットを授業に導入してグループワークで活用していることを評価している。(添付資料 7-C 授業見学シート)

### (4) 生徒の学習成果

JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテストや国際ユース作文コンテストに生徒の作品を応募し、外部評価を得ている。2020年には、JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテストにおいて桐朋女子中学校が学校賞を受賞し、2021年には、国際エッセイコンテスト若者の部にて高等学校3年生が特別賞を受賞した。また、授業のない時間や放課後などに、大学の推薦入試や総合選抜型入試への対応の相談にのっており、毎年、生徒が志望校に合格している。(添付資料 7-D 国際ユース作文コンテスト受賞作品、7-E 受験生の保護者からの手紙)

## 8 学習する学校に向けた社会と連携した教育活動

- a. NPO 法人 日本 PBL 研究所、NPO 法人 FENICS、NPO 法人 開発教育協会ティーチング・ポートフォリオ (TP) 研究会に所属し、『現場で育むフィールドワーク教育』などの書籍の出版、『服・ファッション』などの教材開発、ワークショップ、シンポジウム、研究会などを開催し、PBL (プロジェクト学習)、フィールド教育、開発教育の方法やティーチング・ポートフォリオを広くに紹介し、日本における学校改革や教育改善につなげている。(添付資料 8-A PBL メッセ 2021～激動の時代の PBL、8-B FENICS イベント 人間を育むフィールド(ワーク)教育、8-C NPO 開発教育協会『服・ファッション 開発教育アクティビティ集 5』)
- b. 進路決定者講座において、2018年から社会と連携したプロジェクト学習を行っている。2018年は、「PBL 桐朋

の未来をデザインする」、2019年は、「PBL 社会問題と出会う」、2020年は、「地域×桐朋女子」をテーマにプロジェクト学習を行った。2019年の「PBL 社会問題と出会う」では、エスニックタウン新大久保で行ったフィールドワークから社会問題を切り取り、発信するという方法で、**チーム学習**によるプロジェクトを進めた。この教育活動は、SDGs for School に取り上げられ、「みんなの街」と題した生徒作成のオーディオピクチャーが、そのホームページで紹介された。また、2020年度の「地域×桐朋女子」は、調布FM や調布市のホームページ、受験雑誌などでも紹介され、2021年度からの本校と東部公民館との地域連携につながった。(添付資料 8-D SDGs for School に掲載 「PBL フィールドで社会問題に出会う」、8-E 地域×桐朋女子プロジェクト)

- c. 調布市東部公民館と連携し、SDGs 学習・開発教育、ビブリオバトル、コミュニケーション講座、南極に関するフィールド学習、ボランティア活動を通じた世代間のコミュニケーションの促進や地域理解を進め、地域に開かれた教育活動を行っている。(添付資料 8-F 東部公民館×桐朋女子連携企画)
- d. 国際教育センターに所属し、グローバル時代を創るリーダーの育成に必要な異文化理解教育に取り組んでいる。高等学校地理 B では、調布市にある電気通信大学と連携した留学生による DLP 異文化理解教育や外部と連携したオンライン授業を行っている。(添付資料 8-G DLP 異文化理解講座ワークシート、8-H 学校新聞山みず第 212 号)

- e. 総合的な学習の時間や高 3 決定者講座における選挙啓発・模擬選挙ボランティア、水害などの被災地で活用する雑巾をつくる「ちくちくボランティア」、地域清掃活動、東部地域文化祭のための東部公民館でのボランティア活動を支援している。(添付資料 8-I ボランティア活動写真)
- f. 桐朋教育研究所の桐朋講座において、保護者向けコミュニケーション講座の開設、運営を行っている。

## 9 短期 / 長期の教育目標

私の短期的ゴールは、千葉大学大学院人文公共学府博士課程に在籍し、社会人学生として、社会と連携した教材やカリキュラムの開発と教育実践を進めると同時に、桐朋女子中・高等学校で行ってきた教育活動を言語化、理論化し、博士論文をまとめ、発表することである。そして、私の長期的ゴールは、多様性を尊重しながら、自分らしく生きられる社会を実現するために、その一翼を担う教員を養成するという目標に向かって、桐朋学園芸術短期大学などで教員養成科目を担当し、未来の教員を育て、日本の教育改革に貢献することである。このことが、教員を志望する学生の減少や教員不足を解決する一助となると考えている。また、学校と同じ公共財としての公民館と連携した**学習する学校**の輪を全国に広げること、そして、NPO 法人での教材開発、ワークショップ、シンポジウム、学会での研究発表を通して、教育、学習方法を広く発信することである。さらに、学びを通して学校と地域がつながり、年齢を問わず人々に学ぶことの楽しさを伝え、学びによる自己変容を促したいと考えている。

## 10 添付資料

添付資料 4-A 桐朋女子中・高等学校 教育目標 <https://chuko.toho.ac.jp/guidance/goal/>

### 教育目標

#### 創造力あふれる女性の育成を目指して

これからの時代に必要なのは、新しいものを創り出す力です。あらかじめ決められた正解を求めるだけの力は、人工知能が発達するこれからの時代では通用しないでしょう。

70年以上の歴史を持つ桐朋女子は、「こころの健康 からだの健康」をモットーとして新しいものを創り出すエネルギーにあふれた女性を世に送り出し続けてきました。いままさに、その創造力を育む教育が社会で必要とされているのです。桐朋女子は、これからも時代をリードできる創造性豊かな女性を育てていきます。

#### ことばの力を創造力に

桐朋女子では、教科教育・教科外活動など学校生活のあらゆる場面を通して、生徒たちの創造力を養っていきます。

人は「ことば」を通して考え、「ことば」によって他者に考えを伝えます。私たちは、「ことばの力」はすべての活動の土台になると考えています。その土台の上に様々な活動を行い、論理的な思考力（筋道を立てて考える力）、発想力（ひらめきを生み出す力）、表現力（わかりやすく伝える力）、主体性・協働性（積極的に取り組み、他の人と協力する力）を養います。これらの力が集まり、豊かな創造力（新しいものを創り出す力）が生まれるのです。

## 桐朋女子中・高等学校 ブロック制

### 生活目標、学習目標

#### ブロック制

#### 理想的な中高一貫教育を実現したブロック制度

中学高校の6年間は、発達段階において非常に大きな変化を遂げる時期であり、内面的な成長の著しい時期です。

ブロック制の誕生は1970年（昭和45年）。

中高一貫教育の利点を生かし、ギャップの大きな中学生と高校生のスムーズな接続を考えて、ブロック制は生まれました。以来工夫と改良を重ね、常に発展を目指しながら今日に至っています。



## 添付資料 4-B TOHO GIRLS' GLOBAL EDUCATION- 桐朋女子のグローバル教育 -

<https://chuko.toho.ac.jp/international/pdf/dlp2018.pdf>

Global Education

## 桐朋女子のグローバル教育

日常生活の隅々までボーダレス化が進んだ現在、国籍や言語、文化や価値観が異なる人々が日々接し、目的達成のために協働することは、もはや当たり前のことになりました。私たちが暮らす東京も例外ではありません。

互いの違いを認めた上で粘り強く相互理解を図り、時には言語を駆使して相手を説得する、真のコミュニケーション能力を身につける必要があります。

約30カ国からの帰国生を含む多様な背景を持つ生徒たちが学ぶ本校は、グローバル時代に求められるスキルを育む多彩なプログラムを展開しています。

国際教育センターは、本校が推進する「デュアル・ランゲージ・プログラム(DLP)」の3つの柱の1つ「高度な英語発信の実践」を担当します。多彩な課外プログラムに参加し、授業で身につけた英語を駆使する経験を数多く積んでいくことで、生徒は英語を使つての発信力やプレゼンテーションのスキルを着実に高めています。

### 〈デュアル・ランゲージ・プログラム(DLP)の3つの柱〉

- ことばの力の育成**  
～言語を道具(ツール)として使い、思考・発信する力を養成します～
- 粘り強く粘る力の育成**  
～分析能力を養い、問題解決能力を養う教科横断型の「DLP特別講座」を設置します～
- 共通な価値観の醸成**  
～異文化理解力を強化し、文化を超えたコミュニケーション能力を養成します～



本校を巣立つ「グローバル時代を創る女性像」

「違いを超えて、繋がる力」を持ち  
「真なつた背景を持つ人に  
共感し、協働できる」人





添付資料 5-A 高等学校地理 A のシラバス

2020/04/16

高 3 赤 地理 A (2 単位 / 必修選択・自由選択) 担当 : 吉崎亜由美

□学習目的

「Bブロック」修了までに修得した社会科の基本的知識や能力を基礎として、より専門的な学習内容や研究・探求の手法を身につける。「自主学習への取り組み」を重視し、「社会に出てから役立つ教養」を修得する。

□学習目標

地図や GIS を活用し、地理的な見方、考え方をすることができる。  
世界の諸地域の自然や文化を理解し、説明することができる。  
SDGs を理解し、地域や世界の課題について考えることができる。  
フィールドワークを通して、観察力、思考力、表現力を養うことができる。

□学習内容

地図・地形模型作成、GIS の活用を通して地図の基本を学ぶ。フィールドワークを通して地域の特性を理解し、地域の課題をワークシートにまとめる。世界の自然、文化、日本との結びつきについて調べ、プレゼンテーションを行う。国際ユース作文コンテストに向けたエッセイの作成、ディスカッション、プロジェクト学習 (PBL) を通して持続可能な開発教育 (ESD) を行う。

□教材

教科書「現代地理 A」清水書院 地図帳「新詳高等地歴地図」帝国書院

□評価

授業は個別の作業学習や発表学習、ワークショップやディスカッションなどのグループワークで構成されるため、積極的な取り組みが求められる。teams に提出されたエッセイやスライドなどの課題、その他の作成した課題はルーブリックに基づき評価する。授業への参加状況 (40) と課題の完成度 (60) を総合的に評価する。

□地理歴史科 高 3 地理 A シラバス□

月	学習内容	学習方法
4/14	オリエンテーション	SDGs4「世界一大きな授業2020」
4/21	I 地図から地域の課題を読み取る	①土地利用図の作成
5/12	1.地図を活用した地理的見方・考え方	②フィールドワーク「仙川」ワークシートの作成
5/26		③地形模型の作成
6/ 2		④統計地図の作成(1)
6/ 9		⑤フィールドワーク「浅草橋・合羽橋」ワークシートの作成
6/16		⑥統計地図の作成(2)
6/23		国際ユース作文コンテスト「私が起こしたい変化」
6/30	2.GISを活用した地理的見方・考え方	①Google Earth「アラル海」・デジタルアーカイブ「沖縄」・「ツバル」
7/ 7		②リーダー×気候変動
7/14	II 国際理解と国際協力	①机上旅行の計画(1)
9/ 1	1.世界の諸地域の自然と文化を理解する	②机上旅行の計画(2)
9/ 8		③プレゼンテーション(1)
10/13		④プレゼンテーション(2)
10/20	III SDGs「世界を変えるための17の目標」 1.対話で学ぶ世界の諸問題	①ジグソー法で『フィールドで社会問題と出会う』を読み、地域の課題を理解する
10/27		②フィールドワーカーとケニアの地域の課題について考える
11/10	2.プロジェクト学習「私が起こしたい変化」	①プロジェクト学習(1)
11/17		②プロジェクト学習(2)
11/24		③プロジェクト学習(3)
12/ 1		④プロジェクト学習(4)
12/ 8		⑤ポスター発表

---

 添付資料 5-A 高等学校地理 B のシラバス

## 2021 年度 高2 地理歴史科「地理B」開講にあたって

担当 x コース吉崎/y コース内藤・吉崎

### ●教材

- ・地図帳 帝国書院『新詳高等地図』 ・教科書 東京書籍 『地理B』
- ・第一学習社『最新地理図表』 指示があり次第、神代書店で購入すること(本体 900 円+税)
- ・国土地理院発行 1/25000 地形図「赤穂」開講後、授業で集金予定(昨年度 475 円)
- ・タブレット端末を用意しておく。

### ●学習目的

A・B ブロックに引き続き、「学習内容についての知識・理解」と「自主学習への取り組み」も重視しながら、B ブロック修了までに修得した社会科の基本的知識や能力を基礎として、地理的な学習内容の修得や研究・探究の手法を身につける。

### ●学習目標

- ・社会に出てから役立つ教養とともに受験に必要な知識を修得する。
- ・地図が読める、自分で地図が書ける。
- ・テレビ、新聞、本、雑誌、インターネットや来日外国人等から得られる世界の国々の情報に敏感になる。

地理は私達の身のまわりや世界で起こっていることを取り扱う科目である。図書館の National Geographic, ニュートンなどの雑誌や世界の国々を扱った本を読み、インプットを増やす。

- ・自分の目で見ると、聞く、考え、表現する。授業以外に年 2 回のフィールドワーク(地理巡検)を行っている。6 月 5 日(土) 浅草橋～合羽橋から浅草、1 月 15 日(土) 六本木～東京タワーの 2 回を予定している。必ず 1 回は参加し、レポートを提出すること。なお、1 回目の実施日が社会情勢的にできない場合は、11 月 6 日(土) を予備日とします。

### ●評価

1. 学習内容についての知識・理解については、世界の自然環境、農林水産業、鉱工業等、系統的に学習する。5 月には時差・地形図基礎小テスト、テストゾーンで年 3 回単元テスト、年 11 回の小テストを実施する。テストの内容と授業での作業学習やグループワーク、DLP 異文化理解講座への主体的な取り組みをあわせて、総合的に評価する。

2. 自主学習への取り組みについては、地理巡検(フィールドワーク)後に、浅草橋・合羽橋、または、六本木の景観を観察するレポートを作成する。あわせて、夏季休業中に世界の自然環境、農牧業、食文化、世界遺産などを調べる机上旅行レポートを作成する。レポートで調べた食文化については、調理実習で各国料理(昨年度は感染予防のため中止)をつくり、異文化理解を深める。

### ●シラバス

右の高 2 地理 B シラバスの◆は時差・地形図基礎小テスト、①～⑪は図表集にある白地図テストの範囲、教具・教材欄には単元テストの範囲と年 2 回のフィールドワーク(地理巡検)の日程を示している。世界を地域ごとに学習したい場合は、高 3 の地誌を選択すること。

単元	Xコース	Yコース	学習内容	教具・教材
I 地球を概観する	4/12	4/13	オリエンテーション	地理シラバス、統計資料 資料集作業・時差プリント 色鉛筆・赤穂地形図
	4/16	4/15	①地球上の位置と時差	
	4/19	4/20	②世界の歴史と世界地図	
II 地図とその利用	4/23	4/22	①段彩図作成	4/20武蔵野巡検ab合同 ※フィールドワーク説明 6/5フィールドワーク浅草橋 視聴プリント
	4/26	4/27	②さまざまな地図と読図	
	5/7	5/6	①地形図の読み方(1)	
	5/10	5/11	②世界遺産(自然と文化の共存)	
	5/14	5/13	③等高線から地形を判断する	
III 自然環境と世界	5/17	5/18	オンライン特別授業事前準備	パンデミックから私たちは何を学ぶのか
	5/21	5/20		
1.生きている地球	5/24	6/1◆	④地形図の読み方(2)	6/28～6/30テストゾーン (地形図・地形・気候) ※夏休みレポート課題
	5/28	6/3	①大地形(1)	
2.さまざまな地形	5/31◆	6/8	②大地形(2)	6/28～6/30テストゾーン (地形図・地形・気候) ※夏休みレポート課題
	6/4	6/10①	①小地形(1)	
3.気候と人々の暮らし	6/7	6/15	②小地形(2)	6/28～6/30テストゾーン (地形図・地形・気候) ※夏休みレポート課題
	6/11①	6/17②	③小地形(3)	
	6/14	6/22	①気候要素・気候区分	
4.環境問題を検証する	6/18②	6/24	②熱帯気候	6/28～6/30テストゾーン (地形図・地形・気候) ※夏休みレポート課題
	6/21	7/1	③乾燥帯気候	
	6/25	7/6	④温帯気候	
	7/2	7/8③	⑤冷帯・寒帯・高山気候	
IV 産業と生活	7/5	7/13	①オゾン層・熱帯林・酸性雨	6/28～6/30テストゾーン (地形図・地形・気候) ※夏休みレポート課題
	7/9③	7/15	②砂漠化・温暖化	
1.農業の起源	7/12	9/2	①世界の農業	6/28～6/30テストゾーン (地形図・地形・気候) ※夏休みレポート課題
	9/3	9/7	②世界の農作物・家畜	
2.アジアの農牧業	9/6	9/9④	①モンスーンアジアの農牧業	6/28～6/30テストゾーン (地形図・地形・気候) ※夏休みレポート課題
	9/10④	9/14	②中国とインドの農牧業	
3.ヨーロッパの農業	9/13	9/16	③西アジアとアフリカの農牧業	6/28～6/30テストゾーン (地形図・地形・気候) ※夏休みレポート課題
	9/17	9/21	①ヨーロッパの農牧業	
4.新大陸の農牧業	9/24	10/12	①アングロアメリカの農牧業(1)	6/28～6/30テストゾーン (地形図・地形・気候) ※夏休みレポート課題
	10/8	10/14⑤	②アングロアメリカの農牧業(2)	
	10/11	10/19	③ラテンアメリカの農牧業	6/28～6/30テストゾーン (地形図・地形・気候) ※夏休みレポート課題
	10/15⑤	10/21	④オセアニアの農牧業	
5.世界の林業	10/18	10/26	①世界と日本の林業	10/22都内見学
6.世界の水産業	10/22	10/28⑥	①世界と日本の水産業	
7.世界の食料・環境問題	10/25	11/4	③発表	10/22都内見学
	10/29⑥	11/9⑦	①エネルギー・鉱産資源	
8.資源と鉱工業	11/1	11/11	②工業立地	10/22都内見学
	11/5	11/16	③東アジアの鉱工業	
	11/8⑦	11/18⑧	④東南アジアの鉱工業(1)	11/24～11/26テストゾーン (世界の農林水産業)
	11/19⑧	11/30	⑤東南アジアの鉱工業(2)	
	11/22	12/2	DLP異文化理解講座(E115)	11/24～11/26テストゾーン (世界の農林水産業)
	11/29	12/7	⑥南アジアの鉱工業	
	12/3	12/9⑨	⑦西アジア・アフリカの鉱工業	12/12～12/16関西旅行 ※フィールドワーク説明 1/15フィールドワーク(六本木)
	12/6	12/21	⑧ヨーロッパの鉱工業(1)	
	12/10⑨	12/23	⑨ヨーロッパの鉱工業(2)	12/12～12/16関西旅行 ※フィールドワーク説明 1/15フィールドワーク(六本木)
	12/20	1/11	⑩ヨーロッパの鉱工業(3)	
	12/24	1/13⑩	⑪アングロアメリカの鉱工業(1)	12/12～12/16関西旅行 ※フィールドワーク説明 1/15フィールドワーク(六本木)
	1/14⑩	1/18	⑫アングロアメリカの鉱工業(2)	
	1/17	1/20	⑬アングロアメリカの鉱工業(3)	12/12～12/16関西旅行 ※フィールドワーク説明 1/15フィールドワーク(六本木)
	1/21	1/25	⑭ラテンアメリカの鉱工業	
	1/24	1/27	⑮オセアニアの鉱工業	12/12～12/16関西旅行 ※フィールドワーク説明 1/15フィールドワーク(六本木)
	1/28	2/8⑪	⑯鉱工業のまとめ	
	2/4	2/15	予備日	12/12～12/16関西旅行 ※フィールドワーク説明 1/15フィールドワーク(六本木)
	2/7⑪	2/17	①村落の形態と発達	
V 都市と村落	2/14	2/22	②村落・都市の立地と変化	2/24～2/26テストゾーン (資源・鉱工業他)
	2/18	3/1	③都市の諸問題	
1.村落の変化と都市の拡大	2/21	3/3	予備日	2/24～2/26テストゾーン (資源・鉱工業他)
	2/28		予備日	
	3/4		予備日	

添付資料 5-B 中学校地理「武蔵野巡検」に掲載されたレポート課題

【レポートのまとめ方、書き方】

1) 書くことがらは2つ。まず1つは必ず東京「近郊農業」と、中央高地の農業とを比較して書くこと。

もう1つは次の中から選んで書くこと。

- ・スプロール現象   ・甲州街道
- ・水田（稲作）    ・露頭と湧き水   ・中央自動車道

※深大寺はレポート対象ではありません。

2) 選んだことについて書く内容

- ・ 巡検の際に、先生が説明したことや、自分で観察したことなどを丁寧に文章の形でまとめる（箇条書きにはしないこと）。
- ・ 巡検の際や、あるいはレポートを書いていく際に、考えたり、疑問に思ったりしたことなどについて、調べてみる。たとえば、自宅の近所の様子と比較してみたり、今までに習ったことや本などで読んだことと関連づけて考えてみたりしてみよう。
- ・ 調べてみてわからなかった疑問点があれば、そのことも書いておく。
- ・ 写真・イラストなどを入れてもよいが、ただはるのではなく、その中のどこに注目して観察したのかなど説明を書くことよい。また、写真などをたくさんはって枚数を増やしたりはしないこと。
- ・ 全体を通じての感想を最後に書く。

3) レポートの形式

- ・ 表紙をつけて、表紙には〔テーマ、クラス、番号、氏名〕を必ず記入すること。テーマ（表題）は書いた内容にぴたり合うものにしよう。

例：「なぜ調布市では農地が減ってしまったのか」

「新旧甲州街道の違いはどのようなことか」

- ・ 用紙は、**B5版**の大きさの**400字詰め**の**横書き原稿用紙**で表紙を加えて**8～15枚以内**にまとめること。提出の際には上に2箇所ホチキス止めをすることを忘れずに。
- ・ スケッチ・図・グラフなどを書く場合は他の用紙を使ってもよい。
- ・ 辞書・参考書・統計などを使った時には、その本の著者名、題名、出版社名を必ず書いておくこと。また、統計などでウェブサイトを参考にした場合には、サイト名、URLを必ず書くこと。

4) 提出

**5月13日（木）**の朝のホームルーム

社会科委員が集めて、授業担当の先生の所に届けること。

## 添付資料 5-B 中学校地理「都内見学 商店街調査フィールドノート」に掲載されたレポート課題

## 《レポートの作成》～冬休みの課題～

銀座の商店街と、自分が住む町にある商店街とを比較して、それぞれの共通すること、違っていることなどを見つけ出し、その違いがなぜあるのか考えてみよう。

自宅のすぐ近くに商店街がないという場合は、自分の住む市区町村の中心的な商店街を取り上げてみましょう。難しい場合には、仙川の商店街を取り上げて良いです。レポート作成の手順は次の通りです。

## ① 地図づくり

自分の住む町の商店街の地図を作ります。銀座の商店街の地図を手本にして、1軒1軒わかるような地図を作ります。市役所や商店街の事務所にいくと「住宅地図」あるいは「商店街の地図」を見せてもらうことができます。地元の公立図書館に置かれている場合もあります。（書店でも売っていますが、値段が高い）。なければ自分で歩いて作ってもよいでしょう。銀座は約250mの区間の店を調べたので、だいたいそれと同じ範囲の商店街の地図を同じ縮尺で作成しましょう。もし商店街が短い場合でも、周辺の住宅や農地も含めて約250mの範囲の地図を作ること。作った商店街の地図は、銀座の地図と同じ分類で色分けをします。

## ② 商店街の調査

銀座で実施した時と同じように「商店街調査」を行います。商店街調査のうちBの選択（a～e）は必ず同じ項目を選んで下さい。同じ視点でないと比較ができません。

また、自分の町の商店街の近年の変化についても調べてみましょう。閉店する店や新しく進出した店、成り立ちなどを調べても面白いです。歩道にレンガを敷いたり、駐車場を作ったり、商店街のポイントカードを作ったりするなどの商店街の工夫を見ていきましょう。さらに自分の町の商店街の歴史を調べても面白いです。

## ③ レポートの作成

どの街にもそれぞれの「個性」があります。その「個性」を、商店街を中心にとらえてみることを、レポートの目的とします。まず、銀座の商店街調査と、自分の町の商店街での店の調査の結果を書いていきます。特に自分の目で観察したことを大切にしてください。次に、2つの商店街を比較してみましょう。共通点や相違点があるかどうか、また、なぜそうした共通点や相違点があるのかを考えて書いていきます。特に自分の町の商店街の最近の変化の様子を考えてみると良いでしょう。最終的に、都会の中心にある商店街と住宅地にある商店街との役割の違いについて考えてみましょう。自分の住む街の商店街のもつ個性がつかみ取れると面白いレポートになります。

## ④ レポートの形式

**B5版**の大きさを**400字詰め**の**横書き原稿用紙**に文章を書いてください。原稿用紙の書き方は縦書きの時と同じです。段落分けを意識して、段落をかえた時だけ、次の行は1字あけて書き出します。かじょうが簡条書きの形でまとめるのではなく、文章の形で書いていきましょう。

商店街の地図（銀座の地図は清書用を配ります）や、表やグラフなどを書きたい場合は、例えば方眼紙など他の用紙を使ってかまいません。表紙（用紙を後で配付）、地図2枚、表・グラフなどを枚数に含めず、原稿用紙**8～15枚**にまとめ、すべてをホチキスで2～3か所とめて提出して下さい。

## ⑤ テーマをつける

自分が書いた内容にぴったりあう問いを立てます。「銀座商店街と仙川商店街」というようなテーマでは、その中で何について調査したり考えたりしたのかが、わかりません。例えば、「なぜ銀座の商品は地元の店のものより高いのか」というような具体的な問いがよいでしょう。

## 添付資料 5-B 高等学校地理 B のレポート課題「机上旅行計画」

高2 紫 地理B

2021年7月

## 夏休みの課題「旅をつくる」

——机上海外旅行を計画しよう——

担当 吉崎/内藤

地理Bの授業を進めて3ヶ月が過ぎました。地理の楽しみを多かれ少なかれ、受け止めてきたと思います。「地理B」を選択した皆さんは、国内外を問わず各国各地域に何らかの興味があるはず。これまでの授業でも地理とは知らない土地の知らない人たちに対する好奇心で成り立っています。

地理の学習は本当は狭い教室で学ぶことより、みんなで飛行機に乗って、「最初はソウルで焼き肉…ペキンで北京ダック…」などと歩く、見る、考えることをしたいところです。しかし費用も時間もかかり、また新型コロナウイルスの影響で現実的ではありません。

そこで夏休みの課題として『地球の歩き方』と称し、机上旅行レポートを作ってみましょう。体裁ほかは以下の通りです。趣旨としては、地理的な視点を入れながら、且つ世界の諸地域を親しみやすく理解してもらうことです。そのねらいを踏まえた上でレポートを作成・提出していただきます。

学習単元の中に「世界の農牧業」があります。今回の旅行プランの柱は「食文化・食習慣」「自然環境と農牧業」にします。渡航先の伝統料理・郷土料理をとりあげて、その料理を紹介し、どのような背景から生まれてきたのか？をレポートします。そのうえで、伝統的な料理は、その地域に根ざしたものと考え、あなたが選んだ国の農牧業の様子を調べて紹介してください。その国の主たる農産物、水産物の生産量・水揚げ量の最新のデータを調べて、図や表にしてみましょう。また農産物に限らず主たる輸出入品と輸出入額もしらべるように。もちろん、地形や気候の特色を説明し、その地域が良くわかるような内容になることを望みます。

## ★レポートに入れること★

## 1 旅行日程 現地滞在期間を5日間の旅行とする……………1ページ目

【日程表の例】あくまでも例です。旅行会社のサイトなどを参考にしても良い。

	主な旅程	主な見どころ	宿泊地
1日目	羽田 12:35 発(ANA217 便)→フランクフルト 19:25 発(ルフトハンザ)→マドリード 22:05 着 深夜なので安全第一のタクシーで市内へ移動 20分	機窓からロシアのタイガ見る。	マドリード
2日目	マドリード市内観光 時差ぼけを解消し、ゆっくりと市内観光。 夕食は名物の子豚の丸焼き	プラド美術館、王宮、マヨール広場	マドリード
3日目	マドリード 10:00 発(新幹線 AVE)→バレンシア 12:35 着 午後から市内観光 夕食は地中海名物パエリアなど魚介類料理	世界遺産のラ・ロンハ	バレンシア

※1日目は到着だけなので実質2日目から6日目まで計画。7日目の帰国まで計画。

## 2 想定するコースの地図を描く……………2ページ目

訪問地は必ず記し、その地図を使って大まかな自然(地形・気候)を説明する。

## 3 地域の料理を紹介する……………2ページ目以降

農牧業の様子 主な農作物・生産量などの統計も加える。レシピも忘れずに!

## 4 旅行先の見所・お勧めの見所を2つ以上入れて紹介する…各1ページ分相当

例:世界遺産 博物館 遺跡 国立公園…

※注意事項

- ①最新の統計資料を入れること。  
 (ネット上で得る場合は、政府機関など信憑性の高いサイトを検索)
- ②使用した資料や文献については必ずまとめておくこと。(レポートの表紙に「参考文献」としてまとめる。出版社・著者・出版年・参照したページなど)  
 ※航空時刻表は「freebird」「skyscanner」で検索したサイトが比較的わかりやすい。
- ③文献や資料は丸写しにはしないこと。書く時には内容を理解した上で、自分の言葉で。また資料はコピーして貼っただけではダメ。
- ④様式は以下 A か B の2つのどちらかの規格で。
  - A)原稿用紙 (B5横書き 400字詰め) 8枚以内とし、別紙の表紙をつける。  
 地図や図表は別の紙に描いて貼っても良い。  
 書籍やネット上にある「統計地図」をそのままコピーして貼ることは禁止とする。白地図上に自分でデータを記入するように。
  - B)パソコン(Microsoft Word)で作成。  
 表紙の次のページから書き出す。  
 フォーマットは A4 版であれば縦横の字数や余白は各自のタブレットで作りやすいもので構いません。ただし総字数は上記原稿用紙を使う場合と同様に 3,200 字(原稿用紙 8 枚以内相当)とします。Word 画面の左下に総字数が表記されています。地図は無料白地図サイト「クラフトマップ:」で検索すると使い勝手が良い。  
<http://www.craftmap.box-i.net/country.php>  
 手書きの地図を写真に撮って、添付することも可能。
- ⑤提出方法
  - A)原稿用紙を使う場合：授業時に別紙の表紙をつけてホチキス留め。
  - B)パソコンで作成した場合：Teams の課題機能によるもの。
- ⑥提出日：9月最初の授業 ※パソコンデータ提出の場合も同様

添付資料 5-B 高等学校地理Bのフィールドワーク「地理巡検① 浅草橋・合羽橋」

高2(白)地理B

校外見学・地理巡検①

2020/09/10

## おもしろ問屋街（浅草橋と合羽橋）を訪ねる

新型コロナウイルス感染症の状況に翻弄される日が続きますが、オンライン授業が始まった際にお知らせしました地理巡検を行います。中1の都内見学ではバスから降りて、自分の足で少しだけ歩いてみることはできました。いっぽう今回は地理選択者のみの少人数という条件を生かして、この機会に自分の足で、眼で、東京の一端を知りましょう。今回は下町の浅草橋から合羽橋を経て浅草まで歩きます。首都・東京には様々な機能があります。その中でもある機能が特化した地区も東京にはたくさんあります。今回訪問する浅草橋は、その中でも玩具を中心とした問屋が集まり様々な商品が売買され、また合羽橋は商業用の道具問屋街となっています。下に紹介するのは、その一部ですが、その成り立ち・背景を考えながら、さらに近代的な流通センターとは違った古くからの問屋機能をみてもらいたいと思います。

1月16日(土)午後に予定している2回目の巡検がコロナ禍の状況によっては中止になることも予想されます。出来ることは出来るうちにと考え、なるべく今回の地理巡検に参加してください。

実施日	2020年10月24日(土)	コース	浅草橋→蔵前→合羽橋商店街→浅草
集合	12:45	昼食をとって、Cブロック昇降口に集合	点呼後、皆で一緒に行く。
	仙川13:02発	「快速・本八幡行」に乗り、烏山で「準特急・新宿行」に乗換え。時間厳守!	
		→新宿乗り換え→都営大江戸線→六本木	
		※乗換えをスムーズにするため、SUICA、PASMOを予めチャージしておくこと。	
解散	浅草寺雷門・16:30頃	(最寄り駅・地下鉄銀座線浅草駅)	
引率	吉崎・内藤	※参加費100円(保険代)	

### 両国橋

1657年、江戸時代で最大の火事、明暦の大火が起きた後、幕府が莫大な予算を投じて作ったのが両国橋。度重なる江戸市中の火事から、対岸に逃げられるようにするためのものだった。その際に、両国橋のたもと東西それぞれに「火除け地」という広い空き地を作って、火事が起きても、火が橋に燃え移らないような工夫をした。やがて火除け地には水茶屋や仮設屋台が並んでにぎやかになっていった。木造都市という宿命を逆手に取った幕府の都市政策が、両国を江戸一の盛り場に発展させた。つまり両国橋は、“復興のシンボル”とも言える（それでも両国橋は度重なる火災にあり、現在の両国橋は、最初の位置から50mほど上流に架けかえられている）。

私たちの訪れる問屋街は、総武線の浅草橋駅北側に伸びる江戸通りに沿った地区で、おもちゃ屋と人形屋が並ぶ。最近ではプラスチックの玩具が主流である。テレビのCMで流される「人形の吉徳」「秀月」「久月」などの大型店が続いている。この他、ぬいぐるみ、工作教材、理容材料、デコレーション材料、花火、造花などの卸問屋がある。珍しいものとしては、象牙製からプラスチック製まで、食食用から骨拾い用など様々な種類の箸を扱う問屋がある。1軒1軒覗いていると時間を忘れてしまう。

### 合羽橋

蔵前を経て、元浅草・寿方向へ進むと両側に仏壇仏具の専門店や神棚神具の専門店が両側に並んでいる。また、その先の浅草通りから言問通りの間の約900mに合羽橋道具街がある。読んで字の如く様々な商売用（営業用）の道具を取り扱う商店街である。例えば『ラーメン』と書かれた赤い提灯、文化祭や屋台の出店でタコヤキなどを入れる透明な容器などが店先に並んでいる。この他、洋食器、菓子道具、台所用品、さらに食堂などの店頭にある料理や菓子の食品サンプルの店など浅草橋同様面白いものがたくさんある。知り合いの外国人が来日した際、ここ合羽橋を案内して、銀座などのお店には置いていない少し変わった日本のお土産を買っていったこともあった。

### 銀座線・浅草駅

日本初の地下鉄は、浅草一田原町一稲荷町一上野の4駅、2.2kmから始まった。その中でも浅草駅は最初の地下鉄始発駅として84年間そのまま運営されている。浅草駅でまず目を引くのはお寺風の入り口。昔のままの姿で残っている。実は、稲荷町にも当時の入り口がまだ使われているので探索してみるのも面白い。浅草～上野間のトンネルはなんと「手掘り」で、鉄骨と鉄筋をふんだんに使ったここにしかないトンネルで、銀座線以降の、丸の内線などではトンネルの構造が違い、鉄骨むき出しのトンネルはここでしか見られない。日本最初の地下鉄で、強度などの計算基準がまだなかったため、非常に頑丈に造られた。浅草駅から帰宅するとき、トンネルにも目を留めていると、80余年前の日本初の地下鉄工の姿を垣間見ることが出来る。

## 出欠表

10月24(土)の地理の校外見学に

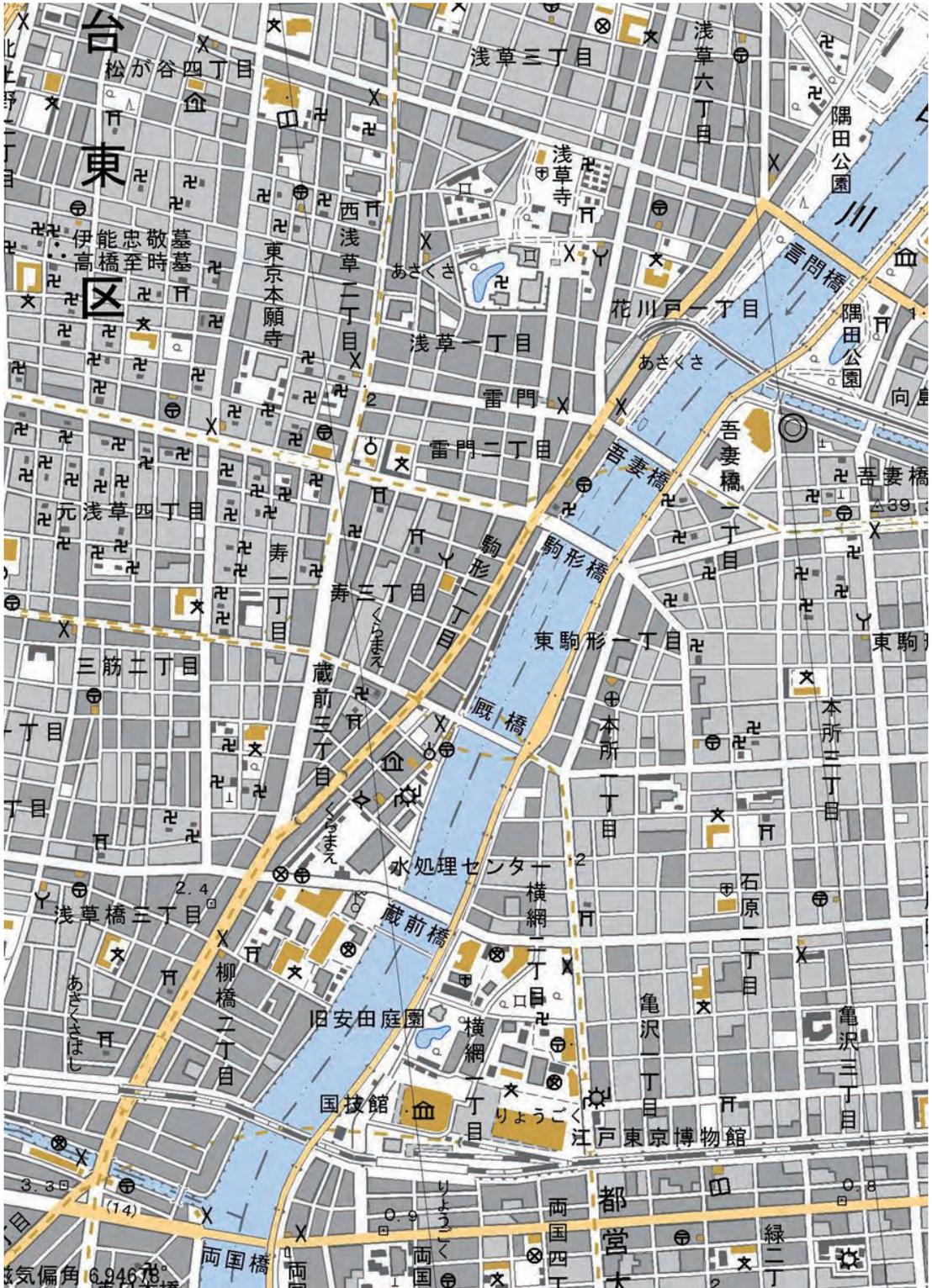
参加します。

欠席します。

組番氏名

自宅電話 ( )

授業コース名 担当者名



---

 添付資料 6-A 高等学校地理実習配布資料

オリエンテーション資料

2019.7.2

## 地理実習のお知らせ

高校地歴科 担当：内藤・吉崎

地理実習では、通常の地理の授業ではなかなか触れられないような内容を実際に体験してもらうため、八ヶ岳高原寮に4泊5日で泊り込みながら、実験・実習を通じて地理の学習に必要な調査方法や研究方法の一部を学習します。そして、現地地、この実験・実習で得られた内容をもとに、八ヶ岳の農業や観光は日本の中でどのような位置にあるのかを考えたり、環境について考察したりします。その結果をレポートにまとめたり、仲間と一緒に1つのテーマについてじっくり話し合ったりしながら、新しい見方、考え方を身につけて欲しいと思います。実習内容は、裏の実習の日程にあるように理科のような実験や測量器を使った地図作り、現地での聞き取り調査など様々な手法を使って学習していきます。

評価については、現地で作成した資料やレポート、ディスカッションの内容などを総合したものを評価に加えます。

期日 8月20日(火)～8月24日(土) (4泊5日)

場所 〒409-1501 山梨県北杜市大泉町西井出 8240

桐朋学園八ヶ岳高原寮 TEL: 0551-38-2106

集合時刻・場所 8月20日(火) 9時00分 せんがわ劇場付近

※万が一、欠席や遅刻をする場合は、前日または当日の8時10分～8時20分の間に連絡する。

解散時刻 8月24日(土) 16時30分頃

解散場所 仙川駅付近

服装 活動しやすい服装、履きなれた靴、帽子、保険証(コピー)

持ち物 飲み物、コップ、雨具(傘、レインコート)、リュック等、ビニルシート、着替え、洗面用具、バスタオル、常備薬、ポリ袋、新聞紙、お金、白衣、筆記用具、色鉛筆、地図帳、分度器、コンパス、電卓、水質調査のサンプル瓶、プリントレーシングペーパー ほか

### 高原寮使用上の注意

#### 入寮時の注意

- ・入寮時、下足室では新聞紙を敷き、靴を入れる。
- ・部屋ごとに布団と枕の数を確認し、不足分は補充する。
- ・班の人数分のシーツ・枕カバーを玄関前ロビーに取りに来る。
- ・退避路・非常口を確認する。

#### 退寮時の注意

- ・晴天ならば朝食前に布団を干す。
- ・掃除
- ・班ごとにシーツ・枕カバーの数を確かめて返却する。
- ・布団を取り込んで収納する。

#### 食事当番

毎食時、全員で行う。食事時間の15分前に準備をする。配膳、下膳ともにセルフサービス。使用後はテーブルをきれいに拭く。

#### 掃除

毎朝、各部屋を清掃する。荷物はある程度まとめ、各自が気持ちよく過ごせるようにする。

#### ゴミ処理の方法

ゴミは毎朝、1階のゴミ集積場に分別して捨てる。

**実習の日程**

**8月20日 (火)**

- 9:00 せんがわ劇場前集合
- 12:00頃 入寮、昼食
- 13:00 気象観測／測量機器の説明＋測量実習
- 16:00 入浴
- 18:00 夕食
- 19:30 水質検査・実験／（測量実習のまとめ）  
水素イオン濃度 pH／化学的酸素消費量 COD／残留塩素／残留窒素
- 22:00 就寝

**8月21日 (水)**

- 6:30 起床、洗面
- 7:00 朝食、掃除
- 9:00 測量実習／気象観測
- 12:00 昼食  
測量実習のまとめ（地形図作成）／水質調査まとめ
- 16:00 入浴
- 18:00 夕食
- 19:20 地形図作成／水質調査まとめ
- 22:00 就寝

**8月22日 (木)**

- 6:30 起床、洗面
- 7:00 朝食、掃除
- 8:30 農家訪問
  - A: 酪農（興石さん）／花卉（浅川さん）
  - B: 酪農（新田さん）／花卉（朝妻さん）
  - C: 野菜（土屋さん）／花卉（佐々木さん）
  - D: さくらんぼ（岩原さん）／花卉（長谷川さん）
 農家訪問のまとめ
- 16:00 入浴
- 18:00 夕食
- 19:20 農家訪問のまとめ／報告会
- 22:00 就寝

**8月23日 (金)**

- 6:30 起床、洗面
- 7:00 朝食、掃除
- 9:00 観光実習／気象観測
  - 1～2班: 清泉寮: データ収集／聞き取り調査等
  - 3～4班: ファームショップ: データ収集／聞き取り調査等
- 12:00頃 昼食
- 15:30 観光実習のまとめ
- 16:00 入浴
- 18:00 夕食

- 19:20 観光実習のまとめ  
22:00 就寝

### 8月24日(土)

- 6:30 起床、洗面  
7:00 朝食、荷物整理、掃除  
8:30 退寮、  
9:00 バスで移動  
10:00 サントリー天然水南アルプス白州工場到着  
12:00 昼食  
13:00 ドラゴンパークにて信玄堤の説明(甲斐市教育委員会)  
16:30頃 仙川駅付近

### 9月2日(月) B 内藤先生に提出すること

気象観測のまとめ・観光実習のまとめ・地理実習のまとめ  
※八ヶ岳高原寮での実習の様子、提出した全ての作品を総合的に判断し、後期に評価と評定と単位を認定します。  
※地理実習の作品は、後日、本館ロビーに展示します。

### 添付資料 6-B 高等学校地理実習の写真

農家訪問 花卉農家 長谷川樹さんへのインタビュー



観光実習 清泉寮で観光客へのインタビュー



採水と水質検査



気象観測



## 添付資料 6-B 高等学校地理実習 地域の方からの手紙

百崎様

いかがお過ごしですか。コロナがますますひどい状況になり、お互い自粛生活ですね。ワールドワイド教育の本を送っていただきありがとうございます。

ほんとに偶然です。その日夕食時に女房と日本の教育について話をしてみました。

女房は辻仁成さんのツイッターをいつもチェックしているようで、そこから得た知識や、フランスの教育は深いです。

日本の教育はもっとも知らず50年前に自分たちが受けた教育は知識を教えるけれど、フランスはよくその

テーマの中から自分が選んだテーマを自分で調べて学習し、得た知識を自分の生活の中にあてはめ、その感想を

自分の言葉で説明する、そんな課題を出す。すごいでしょう。私の気持が正しければ、そのような話をしてみたい。

その後、江戸崎さんから郵便物が届いていろいろにと気がつき、中の書籍を見て敬慕してきました。やはり日本の教育も

百崎さんのような人たちが尽力して進化させているんですね。まだまだ先が見えないかもしれませんが、また先生やお嬢さんたちと

お話しできればいいなと思っています。お元気で。

長谷川 樹

## 添付資料 6-C 高等学校地理 A 地理×SDGs PBL 生徒が制作したポスター



## 1 日本における木材廃棄の現実

新築木造住宅から発生する廃棄物だけでも、木材の占める量は全体の**68%、151万トン**に及ぶ。この木材にかかった処理費用は推定で**662.5億円**。平成12年度建設副産物実態調査(国土交通省)

## 新築系建設現場での廃棄量の要因

- ・解体系と比べ、1現場からの発生量も少なく、工期が長いため毎日少量ずつ発生
- ・現場が狭いため、廃棄物をストックするスペースを確保できない

→リユース・リサイクルに回されにくい

## 積水ハウス「環境未来計画」

- ・現場で27種類に分別し、廃棄物の発生量を正確に把握
- ・「資源循環センター」でさらに80品目に分別。自社、または業者に委託し**リサイクル率100%**を実現
- ・自社のリサイクル製品の開発にも取り組む



大手建築メーカーに勤務する父：会社では“ゼロエミッション”を取り入れ、現場での分別を徹底し、混合廃棄物の削減に取り組んでいる。現在では、現場での分別が当たり前になった。中小企業は事前に加工された資材を用いることで、そもそも現場で発生するごみを減らすことが問題解決に繋がる。

※ゼロエミッション：生産活動によって排出される廃棄物をなくすことで循環型社会実現のために提唱された概念。現在は建築業界に限らず多くの会社で取り入れられている。

## 2 廃棄される木材を原料とした新たな素材

## ウッドファイバー

木をチップよりさらに小さく、繊維のレベルにしたもの

## 断熱材

ウッドファイバーを圧縮し、固めたもの。同じくウッドファイバーを原料としたものに“ファイバーボード”という板があるが、それよりも密度を低くし、ふわふわに仕上げることで断熱材となる。木はプラスチックよりも環境に良いのはもちろん、他の天然素材と比較しても熱伝導率がとても低い。木材は断熱材に適した素材と言える。

## ペレット

森林の育成過程で生じる間伐材や工場などから発生する樹皮、端材などを原料とした燃料で、薪などと比較しても扱いやすくなっている。また、小さな円筒状に成形されたいため運搬も容易で、十分に乾燥していることから着火性に優れ初心者さんのキャンプでも活用できる。使用後の灰は土壌改良としても利用が可能であるなど、最後まで無駄なく天然資源を活用し、最後はまた自然に戻すことができる。

## 4 私たちにできること

今回は建築業界を取り上げて木材廃棄の現状を示し、建設現場の状況を理解すると多少の廃棄は仕方ないと思うかもしれない、特に中小企業は積水ハウスのような大手のように大規模なリサイクル場を準備するの難しいだろう。しかし、上でも記載したように大企業もやっていることはとてもシンプルなこと、再利用できる状態にすること、分別すること。これはどんなに小さな会社や工房でも実践可能であるはずだ。作業の手間は多少増えるかもしれないが、天然の資源、自然から有限な素材を使わせてもらっている以上、使用者側は可能な限り無駄にしないような行動をとるべきであると私は思う。

それは製作者だけに言うことではなく、工場などを経た製品を使う私たちも対象である。日頃の生活では廃材・端材といったワードに触れることは少ないかもしれないが、そんな私たちでも意識して考え少し調べただけで私たちも環境を良くする手助けを身近にできることに気が付くだろう。

工房や建築現場などで日々多くに木材が加工され私たちが目にする形になっている。しかし、必ず端材、廃材が発生する。同じ木材でも形・色などが規格外というだけで“廃材”になってしまう。今回はそのような木材を有効活用しようとする団体や、既に我々の身の回りにもあるリサイクル素材などを紹介し身近に感じてもらう。

## 3 木材の廃棄を減らすために活動する団体

## ・ MATERIAL MARKET

福岡を拠点とする廃材のセレクトショップ

→ヒノキの枝を丸くカットしたもので、防虫・防臭効果がある。色味やヤニなどで商品にならなかったものを集めて販売。



<https://www.enrich-funding.com/projects/material-market>

## ・ 岡崎製材株式会社

木材の加工や一枚板の家具づくりを行う。これまでは活用法がなく廃棄してきた木材を製品とする「HAZAI project」に取り組んでいる。カッティングボード、ツール、ブックエンドなどを過去に制作。



<http://wood-kiba.com/column/haazai-project/>



<https://koishi-s.com/>

## ・ 小石製作所

偶然端材で作った木の車がきっかけで2018年に始まった木工所。今はおもちゃだけでなく、家具のパーツや照明、ドアハンドルなどの“小さな木製品”という限定的なコンセプトのもと、端材の再利用に取り組んでいる。

## ・ 一般社団法人 横浜もの・まち・ひとづくり

中小企業や工場、住宅が混在する東山田準工業地域で、町工場と住民の共生を目標に、様々な活動を行う。

↓企業や工場から出る廃棄物、端材を学校で有効活用できる仕組み。企業ごとの廃材をまとめたカタログで学校と企業を繋ぎ、企業も子育てに参画でき社会貢献に。



<http://2080.jp/>

## ・ マテリアループ

工場や倉庫で余っているもの、廃棄を待つもの、不要なものなど“眠れる素材”から“ユニーク”や“ナイス”をクリエイするというスタイルを中心に、資源が循環する社会を作るきっかけをつくるプロジェクト。Web上での活動や期間限定の蚤の市のようなものを開いている。

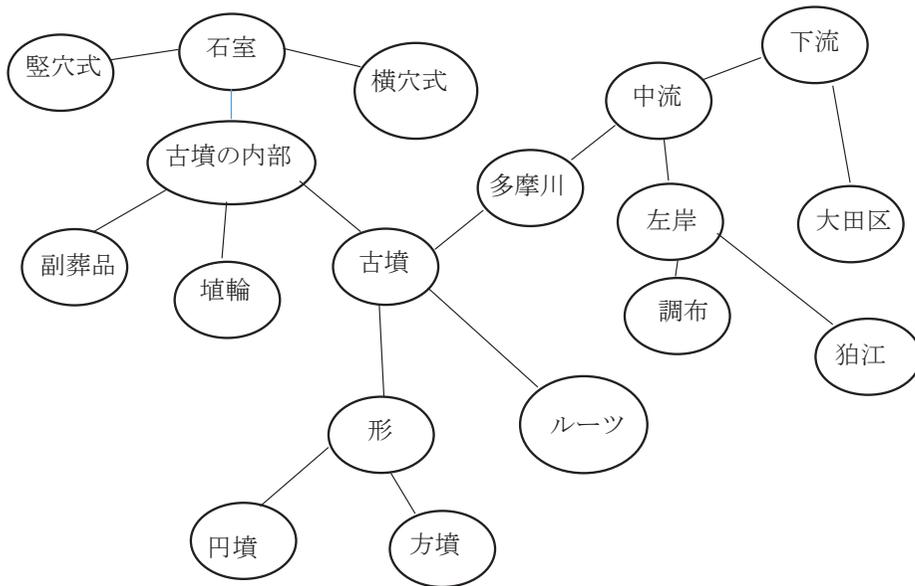
添付資料 6-D T-Project の企画書と学習履歴図

## T-Project プロジェクトの企画書 書き方

A 組 40 番 氏名 桐野 朋子

1. プロジェクトの問い  
なぜ、多摩川中流域・下流域に古墳があるのか

2. プロジェクトのアウトライン マインドマップをつくり、アウトラインを考えましょう。



3. プロジェクトの最終ゴール  
「なぜ、多摩川中流域・下流域に古墳があるのか」というオリジナル動画を作成し、狛江の魅力を発信することで、地域活性化につなげる。

4. プロジェクトの価値について考えましょう

※自分にとって

中2で郷土資料館、博物館を見学し、郷土史レポートを作成したことで、郷土の歴史に興味を持った。今回は、学校がある調布市や隣接する狛江市について、歴史を通して再発見したい。

※周りの人や社会にとって

狛江市では『狛江市民活動・生活情報誌わっこ』や『狛江市文化財散策マップ』の作成や古墳公園の整備を通して、「ともに創る 文化育むまち～水と緑の狛江～」をアピールしている。私の制作した動画で狛江の魅力を発信することで、地域活性化につながると考えられる。

5. 問いを解決するために、調べる必要のあることを3つ以上あげましょう。				
・多摩川中流域・下流域にどこに古墳が分布しているのか？				
・古墳の特徴に共通点があるのか、相違点があるのか？				
・どこまで、先行研究が進んでいるのか、何がまだ解明されていないのか？				
6. 最低3つ以上の情報源をあげましょう。(そのうち1つは、実在の人物であること。)				
・文献調査：『文化財ガイド1』『文化財ブックレット2』『楽しい古墳案内』『ガクチキ』				
・フィールドワーク：『調布市指定史跡下布田6号墳』狐塚古墳、『狛江市文化財散策マップ』駄倉塚古墳、経塚古墳、兜塚古墳、亀塚古墳、白井塚古墳、猪方小川古墳、前原塚古墳、土屋塚古墳他				
・聞き取り調査：狛江市役所社会教育課文化財担当宇佐美さん				
7. 活動の順序を考えて、活動計画を立てましょう。				
このプロジェクトは、合計( 40 )時間の学習です。				
①	情報収集、文献調査			(4時間)
②	フィールドワーク 狐塚古墳			(2時間)
③	フィールドワーク 駄倉塚古墳、経塚古墳、兜塚古墳、亀塚古墳、多摩川 他			(4時間)
④	フィールドワークのまとめ			(4時間)
⑤	聞き取り調査 狛江市役所社会教育課文化財担当宇佐美さん、松下さん			(2時間)
⑥	文献調査			(4時間)
⑦	パワーポイントの作成			(10時間)
⑧	古墳内部のグラフィック制作			(6時間)
⑨	古墳分布図作成			(2時間)
⑩	動画制作			(2時間)
8. 教科学習とのつながり このプロジェクトとつながりがあると思う教科をあげましょう。				
社会科、地学、技術、美術				
9. 保護者・先生(アドバイザー)のサイン				
保護者のサイン	桐野	アドバイザーのサイン	荒井	副 武田

**学習履歴図 (振り返り)** このプロジェクトを通してどのような力を身につけたいですか？

プロジェクトのゴール  
 「なぜ、多摩川中流域・下流域に古墳があるのか」というオリジナル動画を作成し、狛江の魅力を発信することで、地域活性化につなげる。

図書館で古墳に関する文献を探し、先行研究について、調べ始めた。	ネットで調布や狛江の古墳に関する情報を収集し、フィールドワークの計画を立て始めた。			
4月20日(水)	4月27日(水)	5月11日(水)	5月18日(水)	6月1日(水)

桐朋女子中・高等学校

## 身につけたい力

私は、桐朋女子の目標である「論理的思考力」「分析力」「発信力」を身につけたいと思います。古墳の分布の関連性を整理し、筋道を立てながら、なぜ多摩川中流・下流域があるのか分析し、論理的に考え、自分のオリジナル動画を通して地域の方に発信したいです。

月 日( )				

添付資料 6-E T-Project のルーブリック

プレゼンテーションのルーブリック				
【定義】プレゼンテーションとは、知識を増やしたり、理解を深めたり、もしくは、聞き手の態度、価値観、信念、振る舞いにおける変化を促すような、準備された、目的をもった口頭発表のことである。				
プレゼンテーション	キャブストーン	マイルストーン		ベンチマーク
	4	3	2	1
構成	構成的パターン（具体的な導入と結論、本論）が明確で、一貫していて、上手くプレゼンテーションの内容が関連づけられている。	構成的パターン（具体的な導入と結論、本論）が明確で、プレゼンテーションの中に一貫して見られる。	構成的パターン（具体的な導入、本論）がプレゼンテーションの中に時々みられる。	構成的パターン（具体的な導入、本論）がプレゼンテーションの中にみられない。
言葉	言葉の選び方が、想像力に富んでおり、印象的で、説得力があり、プレゼンテーションの効果を増している。プレゼンテーションにおいて、聞き手に応じた言葉を選んでいる。	言葉の選び方が、よく考えられていて、プレゼンテーションの効果を支えている。プレゼンテーションにおいて、聞き手に応じた言葉を選んでいる。	言葉の選び方が、工夫されていないが、プレゼンテーションの効果を部分的にのみ支えている。プレゼンテーションにおいて、聞き手に応じた言葉を選んでいる。	言葉の選び方が、不明確で、プレゼンテーションの効果は、最小限にとどまっている。プレゼンテーションにおいて、聞き手に応じた言葉を選んでいる。
伝え方	伝え方の技術（姿勢、ジェスチャー、アイコンタクト、話すスピード、間の取り方、声の大きさ、声の抑揚）により、説得的なプレゼンテーションとなっていて、発表者は自信があるように見える。	伝え方の技術（姿勢、ジェスチャー、アイコンタクト、話すスピード、間の取り方、声の大きさ、声の抑揚）により、興味深いプレゼンテーションとなっていて、発表者は落ち着いて見える。	伝え方の技術（姿勢、ジェスチャー、アイコンタクト、話すスピード、間の取り方、声の大きさ、声の抑揚）により、プレゼンテーションは理解可能であるが、発表者は自信がなさそうである。	伝え方の技術（姿勢、ジェスチャー、アイコンタクト、話すスピード、間の取り方、声の大きさ、声の抑揚）により、プレゼンテーションが理解しづらい。
補足資料	多様な補足資料（説明、例、図解、統計、比喩、信頼できる情報源からの引用）が、プレゼンテーションを大いに支え、かつ、発表内容を確認なものにしている。	補足資料（説明、例、図解、統計、比喩、信頼できる情報源からの引用）が、プレゼンテーションをおおそそ支えている。	補足資料（説明、例、図解、統計、比喩、信頼できる情報源からの引用）が、プレゼンテーションを部分的に支えている。	不十分ではあるが、補足資料（説明、例、図解、統計、比喩、信頼できる情報源からの引用）が、プレゼンテーションを最低限支えている。
中心的なメッセージ	中心的なメッセージに説得力がある。（補足資料によって、正確に述べられ、適切に反復され、印象的で強く支持されている）	中心的なメッセージが、補足資料によって、明確で一貫性があるものになっている。	中心的なメッセージは基本的に理解可能だが、あまり反復されておらず、印象的ではない。	中心的なメッセージは推測できるものであり、発表内で明確に述べられていない。
発表者( )		評価者( )		
<b>A 構成</b>	4	3	2	1
<b>B 言葉</b>	4	3	2	1
<b>C 伝え方</b>	4	3	2	1
<b>D 補足資料</b>	4	3	2	1
<b>E 中心的メッセージ</b>	4	3	2	1
フィードバック ※ポジティブフィードバック、コンストラクティブ（建設的）フィードバック				

添付資料 6-F 全日本小中学生ダンスコンクール銀賞受賞



ダンス部文化祭発表



## 添付資料 6-G 『桐朋教育は入試から始まる』

## 『桐朋教育は入試から始まる』—2022 年口頭試問・受験生へのメッセージ—

1. 口頭試問について

A 入試の口頭試問は、受験生が未知のことがら（知らないことがら）を「学ぶ力」や「学ぼうとする意欲」を確かめる入試です。さらに、学んだことをもとに、知識をつなげて筋道を立てて「考える力」や「表現する力」も問われます。そして、自分の意見を述べることもあります。これらの力や姿勢は、小学校の授業をはじめとして、普段の生活でも必要とされているものです。

口頭試問では、まず教室で「準備」をしながら、学んだことがらをどのくらい理解できたかを確かめるための課題に取り組みます。次にその内容に関する「試問」を受けます。「試問」では、取り組んだ課題についてなぜその答えにたどり着いたのかを口頭（口で述べること）で説明します。この時、間違いに気づいたら答えを修正することもできます。与えられた時間の中で未知のことがらを学んで、自分なりに理解すること、自分の言葉で説明することが必要です。「準備」のなかで学んだことは、次の内容の理解につながります。

みなさんには、小学校の授業のなかで、また生活のなかで、「なぜ?」「どうして?」という疑問を持ち、知ろうとすること、理解すること、考えることを大切にしてほしいと思います。疑問を持ったら、そのことについて自分で調べたり、友達と一緒に考えたり、身近な大人の方に聞いてみたりしてもいいですね。そして分かったことを、ノートにメモしたり、文章に書いたり、声に出したりしながら説明することも大切ですね。未知のことがらを「学ぼうとする意欲」を持って学ぶこと、そしてそれをくり返すことが本当の「学ぶ力」になり、みなさんを成長させてくれるのです。

桐朋女子の教育は入試から始まります。桐朋女子の口頭試問を受けることで学びを深めていきましょう。

2. 2022 年度の口頭試問「準備」および「試問」について

「準備」は、授業の形式や、課題文を読み進める形式で行われます。2022 年度は主に授業の形式で、最後の課題は音声を聞く形で行いました。

口頭試問のテーマは「消滅危機言語」でした。みなさんは、「消滅危機言語」という言葉を聞いたことがあるでしょうか？消滅危機言語とは、将来なくなってしまう可能性がある言語のことです。現在世界には約 6,000 の言語がありますが、今後 100 年の間に約 2,500 の言語がなくなってしまう可能性があると言われていています。みなさんは、「もし日

本語がなくなってしまうたらどうしよう」と考えたことがありますか？日本語がなくなったら、何が起るのでしょうか？私たちが暮らしている地球上に、いつかなくなってしまう言語があるということ、どこか遠い国の話ではなく、身近なこととして考えてみてほしいのです。「知らなかったことを授業で学び、学んだことを身近な問題と関連づけて考えてみる。そして、その共通点や問題のつながりに気づき、自分で考えたことを表現する。」これは、桐朋女子の授業でとても大切にしていることです。口頭試問は、桐朋女子で受ける最初の授業です。

「準備」では、初めにアフリカのカラハリ砂漠に住む女性が話している動画を見てもらいました。おそらく誰も聞いたことのない言葉だったでしょう。「一体何が始まるのだろう」とワクワクする気持ちで、これから始まる授業を楽しんでほしいという思いを込めました。

課題1は、「消滅危機言語とは何か」について答える問題です。世界にはどれくらいの言語があるのか、今後なくなってしまう可能性のある言語がいくつくらいあるのかを、世界地図を見ながら学びました。課題2では、消滅危機言語がどのような自然環境のところに集まっているのかを考えます。その際、険しい山脈や森に囲まれたインドの村、森に囲まれたインドネシアの島の写真を見ました。写真を見て終わりではありません。それを見て、「どうしてこのような場所では言語が消滅していくのだろう」と疑問を持ち、「きつとこういうことが言えるのではないか」と自分で考えてほしいのです。ここで考えたことは、試問全体につながっています。くり返しになりますが、生活の中で、いつも「なぜ?」「どうして?」と疑問を持つことが大切です。また、課題2では若い人が村を離れて都市に働きに出ることと、言語が消滅することにどんな関係があるのかも問いました。みなさんはどうしてだと思いますか？課題3は、オーストラリアの先住民の言語がどうして消滅危機言語になったのかを考え説明する問題です。ここでは3つの資料が示されました。1つめはオーストラリアの先住民に関する年表、2つめは先住民の人口の変化を示す表、3つめはある本から引用した、先住民の女性の話です。資料を読みとる力、分析する力、順序立てて説明する力、文章を書く力が必要となります。桐朋女子では、本物の資料に触れながら、自分で分析し説明することを大切にしています。また、資料に書かれていることだけがすべてではないという視点も重要です。資料に触れるときには、「これは誰が書いた資料なのか」「その資料から何が分かるのか」「どうしてそう言えるのか」と、いつも疑問を持ち、自分で考えながら学んでいきましょう。課題4では、言語がなくなると何が起るのかを考えます。授業では、かつては消滅の危機にあったハワイ語の特徴を学びました。ハワイ語では、いくつもの意味を持つ「アロ

ハ」という言葉があったり、場所によって降る雨の表現が違っていたりします。これらがなくなると、一体何が起るのか、自分で考えて説明する問題です。課題5は、消滅危機言語に対する2人の意見を聞いて、その意見の違いをまとめた上で、自分の意見を書くという問題です。まずは、聞いたことを理解して書き取る力が必要です。桐朋女子の授業では、生徒のみなさんが前に立って発表をする場が多くあります。また同時に、聞いている側は仲間の発表の内容を理解し、それを書き取る力が求められます。桐朋女子の教育は入試から始まっているということが分かってもらえたでしょうか。自分の考えを表現する課題のポイントは、授業で学んだことを含んでいるか、そして自分の考えに対して、その説明となる理由がしっかり書けているかどうかです。一つひとつの課題だけを考えるのではなく、授業で学んだことすべてが繋がっているということに気が付いてほしいと思います。

「試問」では、「準備」で解いた課題を確かめます。みなさんが授業の中で何を学んだのか、課題5ではどんなことを考えたのかなど、試問官の先生たちは受験生のみなさんの発言を楽しみにしていました。また、「試問」では、課題以外のことについても質問しました。その場で写真を見ながら、授業で学んだことをもとに考えて、説明をする問題です。正解は1つとは限りません。自分がどうしてそう考えたのか、きちんと筋道を立てて自分の言葉で説明できているかどうかが大切です。この力は桐朋女子に入学してからも、また卒業したあとも、必要な力です。

口頭試問では、みなさんと一緒に先生たちも学んでいます。ぜひ楽しみながら「準備」と「試問」を受けてほしいと思っています。桐朋女子で、一緒に成長していきましょう。

## 添付資料 6-H 第80回日本教育学会発表PBLを取り入れた高等学校地理の授業デザインと生徒の変容

### PBLを取り入れた高等学校地理の授業デザインと生徒の変容

○ 吉崎 亜由美（桐朋女子中・高等学校）

#### 1. はじめに

2022年度から施行される新学習指導要領の前文には、「一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」とある。そして、「教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身につけられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。」と続く。つまり、新学習指導要領では、持続可能な社会の創り手を育成するという教育（ESD）の目的に向かって、社会的変化を乗り越えるための社会に開かれたカリキュラムの開発が学校に求められている。そして、第1章総則 第2款2(2)では、「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点で育成していくことができるよう、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図る」ことが求められている。本校では、地理総合の必修修化を見据えて、2018年度からの4年間、PBLを取り入れた高等学校地理Aのカリキュラム開発とその実践を行ってきた。また、2018年度からの3年間、高校3年生進路決定者対象にPBLを行った。この2つの社会に開かれた教育課程の実践を通じた生徒の変容と学校の変容について発表する。

## 2. PBLを取り入れた高等学校地理Aのカリキュラム開発

2022年度に高等学校の必修科目となる地理総合の中心テーマは、①地図やGIS（地理情報システム）で捉える世界、②国際理解と国際教育、③持続可能な地域づくりの3点である。カリキュラムの最後にPBLを配置し、全ての学習活動がPBLに向かうために必要な知識の獲得や学習に対する動機づけ、生徒が主体性に考える活動になるようにデザインした。評価については、提出されたエッセイやパワーポイントなどの成果物、その他作成した課題はルーブリックに基づき評価した。授業への参加状況(40)と課題の完成度(60)を総合的に評価し、試験による評価は行わない。

授業は、個別の作業学習や発表学習フィールドワーク、ワークショップやディスカッション等のグループワークで構成されるため、積極的な取り組みが求められる。そして、生徒同士の相互支援を重視した参加型授業により生徒のリーダーシップを育む授業を行った。

### 3. 生徒の変容

2018年～2020年度に実施した授業調査アンケート結果によると、授業満足度は、1点(大いに不満)～5点(とても満足)点中、平均4.53点と満足度が高い。生徒はその理由を「積極的に話すことが多い。生徒が主体的にとりくめて、考えられる授業だから楽しい」「プレゼンやディスカッションなど、すべて自分でやるような課題が多くて楽しい」「いろいろな人に会えて楽しい。授業の雰囲気が明るく楽しい」「他の授業ではできないような、フィールドワーク、地図作成など総合的な学びができた」「先生が親身になって、課題への取り組みをサポートして下さった」「質問がしやすく、あまり得意でない地理の授業を楽しむことができた」「生徒の予定や進み具合を見て、計画を柔軟に変更したりなど、生徒ひとりひとりを気にしながら授業を丁寧に進めてくれる」「オンライン授業でもスムーズに課題に取り組むことができた」と述べている。発言しやすい、質問しやすいクラスづくりと対話による授業を大切にしていることが生徒にも伝わっている。また、課題に主体的に取り組む、フィールドワークやゲストスピーカーを招いたワークショップにより、自ら考え、互いの意見を聞きながら視野を広げることで、生徒は「学びが楽しい」と感じるようになる。これが、PBLを配置したカリキュラムによる授業を通して見られた生徒の変化である。

また、カリキュラムの最後に配置したプロジェクト学習でも生徒は変化する。自分でテーマを探すのが難しかった生徒が、教員のアドバイスにより、プロジェクトの問いを立て、「自分の発表を聞いた人が、家具を選ぶための知識をつけて、原産国のことや木材の性質などを考えるきっかけになること」をプロジェクトのゴールに設定することができた。また、「自分の興味関心があることを深く調べて、発表することを楽しいと感じるようになった。そして、人前で発表することが苦手だったが、発表することに少し抵抗がなくなった。」と述べている。生徒は、PBLの学習履歴図による内省やルーブリックによる相互評価を通して、自ら目標にした身につけた力に向かって学習を進めた成果を評価し、そして、自らの課題にも気づくことができたことが分かる。

### 4. よりよい社会の創り手の育成とPBL

高3進路決定者講座のプロジェクト学習のテーマは、2018年「PBL 未来の桐朋女子をデザインする」、2019年「PBL フィールドで社会問題に出会う」、「ボランティア活動」、2020年「PBL 地域の魅力を発信する」である。2018年は、教員を招いて校内発表を行った。新大久保フィールドワークを通じた2019年の実践は、SDGs for Schoolで紹介され反響があった。ちくちくボランティアや地域清掃では、かつて「自信がない」と言っていた生徒が、リーダーシップを発揮した。コロナ禍で行った2020年度のPBLは、生徒がテーマを「地域×桐朋女子～地域に根付く学校になるために～」に変更し、地域に飛び出し取材を行った。インタビュー先を見つけられず、アポイントの取り方も分からなかった生徒が、プロジェクト学習を通して、学校の地域連携を提案し、地域社会と学校を動かした。そして、2021年、生徒と教員が「市民講座」「ジュニア教室」「シニア教室」「展示会」「講演会」「地域文化祭」等の地域の活動に参加することになり、学校が地域社会とつながり始めた。今まで行ってきたフィールドワークやボランティアという教育活動を越えた学びが生まれた。PBLは、生徒の学びだけでなく、教員や地域社会の学びにつながるのである。

### 5. 参考文献

- 吉崎亜由美「フィールドワークで気づいた「なぜ？」から問いを立てる」『現場で育むフィールドワーク教育』古今書院、2021  
 吉崎亜由美「2022年から必修科目となる地理総合を見据えた高校地理Aの授業実践報告」『開発教育66』開発教育協会、2019

## 添付資料 6-I 教職員研修ファシリテーション基礎講座－想いや気づきをうながす問いづくり－

2019年9月～10月

教職員各位

2021.10.20

桐朋教育研究所  
ダヴィンチ準備委員会

教職員研修のお知らせ

## ファシリテーション基礎～想いや考えを引き出す「問い」づくり～

みなさんは、ファシリテーションをした経験はありますか。まだ、経験のない方は、仕事の中で、ファシリテーションをすることは必要だと思いますか。私たちが日々行っている会議では、さまざまな意見を忌憚なく出し合い、予定調和にならない議論を通して、合意形成していくことが重要です。また、会話やホームルーム活動、部活動、保護者会、授業などの場面でも、相手の話を引き出せるような聴く力を身につけ、相手の大事な話を見逃さない、やり過ぎないことが大切です。今回の教職員研修では、ファシリテーションの共通したスキルを身につけるのではなく、「私たち1人1人のコミュニケーションを振り返り、個性を活かした自分らしいファシリテーションや対話を考える」きっかけづくりを目指しています。

ファシリテーションの基本である「対話」の精神は、桐朋教育が大切にしてきたことの1つです。また、ファシリテーションの基本である「傾聴」については、中高部では2019年2月に教員研修を実施するなど各部で実施されています。そこで、今回の教職員研修では、**ファシリテーション基礎～想いや考えを引き出す「問い」づくり～**をテーマに、ひとつの事象についてさまざまな角度から「問い」を作成します。問いづくりを通して、想いや考えを引き出す「問い」とは何かを考え、自らのコミュニケーションや対話を振り返る機会をつくります。また、自分自身や他者への問いを変えることで、前向きな思考や建設的な結果を手に入れるためのきっかけづくりになることを期待しています。

来年度から、中高のBブロックで始まるT-Projectの目標の1つは、「興味関心のあることから、問いを立てる力を身につけること」です。今回の教職員研修が、みなさんからの率直な疑問、質問に答えながら、共通理解を深める時間となり、T-Projectや授業、会議等での場づくりのヒントになることを願っています。

## 記

テーマ ファシリテーション基礎～想いや考えを引き出す「問い」づくり～

日時 2021年12月21日(火) 15:40～17:00

場所 桐朋学園ポロニアホール

※ コロナウイルス感染拡大の際には、Zoom オンライン研修に切り替わることがあります。

その場合は、事前にZoom ID などをお知らせします。

講師 中村絵乃先生(開発教育協会事務局長/教育学・ESD・対立解決教育)

持ち物 メモ用紙、筆記用具

※教職員研修後に、振り返りのアンケートを行います。アンケートの内容は、各部の職員会議などで共有します。

## 授業調査アンケート

①あなたにとって「この授業」の満足度を教えてください。またそのように答えた理由を教えてください。



理由

② 授業担当者に対してのふりかえり

この授業の満足度をさらに向上させるために授業担当者に望むことはありますか。良い点、改善してほしい点、後期に取り入れてほしい点などがあれば、自由に記述してください。

③ 自分自身についてのふりかえり

この授業の満足度をあげるために、あなた自身の改善すべき点がありますか。授業へ臨む姿勢、日頃の学習への取り組み(予習・復習・テスト前後・レポート等)を振り返り、自由に記述してください。

④ 授業担当者である私に対してコメント、メッセージ、相談等があれば自由に書いてください。

教科  
科目

組 番 氏名

\_\_\_\_\_

桐朋女子中・高等学校

## 校風と授業形態の関連性

理科 2 類 2 年教育学部教育心理学コース内定  
学籍番号：

### 1. 概要

日時：11 月 21 日（木）

場所：桐朋学園桐朋小学校、高等部

5 時間目(13:25-14:05)小学 1 年生「総合」（どんぐりを使った作品作り）

13:25 導入

13:50 作品作り開始

14:01 片付け

6 時間目(14:15-15:00)高校 2 年生「地理」

14:15 授業開始

サトウキビを運搬する絵について

14:20 アルゼンチンの農業

14:25 オーストラリアの農業

14:35 Artesian Water の説明

14:53 ニュージーランドの農業

15:00 授業終了

### 2. 観察のエピソードとその考察

#### 高校 2 年生「地理」

##### **エピソード 5：先生から生徒への質問（高校）**

開始すぐから先生が「この絵は何の挿絵ですか」といった質問をした。そして先生が生徒にマイクを向けて答えを促し生徒もすぐに答えていた。また、授業開始 15 分、「Artesian Water とは何か？」というワークがなされ、まず 5 分間それぞれが記述をノートに書くこと

になったが、5分後にも生徒はあまり記述をかけていなかった。先生はその様子を見て、記述のためのヒントを話し、その後先生が解説をして重要なポイントを話していた。また、授業開始30分には、「ニュージーランドは何気候ですか」という質問を先生はし、それに対し一部の生徒達は進んで答えていた。

**考察:**この授業の先生は質問を多くすることや、ワークに対して生徒に考えてもらうことを大事にしていた。先生に当てられた生徒はすぐに答えたり、わからなければ前に少し戻って答えを探したりして、答えことに対し全く当惑せず必ず答えていた。東原先生によると学校の方針は生徒の自主性を養うことであり、校風は自由なものだった。その自主性が授業にもあらわれており、また授業が自主性を養う場にもなっていると考えられる。

答えることを特別なこととして考えていないと思われる。

しかし、この授業で記述を書くためのヒントを与えていたように、考える上で生徒がわからないと感じた時にうまくヒントを与え、答えを自分で組み立てることのできるようになる必要があると考えられる。

#### エピソード6：先生が話したことをメモする生徒としない生徒

この地理の授業はスライドを用いて行われていた。パソコンルームで行われ各机には1人1台のパソコンと2人で1つ真ん中に先生がスライドを写すスクリーンがあった。多くの生徒が各自のパソコンでグーグルスライドを開き、スライドを遡るようにしていた。授業は生徒がそれぞれスライドを見ながら先生の口頭によって授業が行われた。授業開始15分になされた「Artesian Water とは何か?」というワークで、先生が解説をする中で重要なポイントを話していた。ある生徒は先生の言ったことをすぐにノートにメモをしていたが、あまりメモをせずに図表集やスライドを見ているだけの生徒もいた。

**考察:**この授業では板書をせずに生徒が重要なところを自分でメモを取る形式であった。そのため生徒によってメモをする量が異なっていた。先生が重要なところを整理して書く板書だと授業中に少し集中ができていなくても、復習により知識を身につけることができる。しかし口頭で話したことを各自でメモする形式だと、メモできなかったことを生徒は復習できず身につけることができなくなると考えられる。しかし先生の言った図表集や地図帳のページをすぐに開きチェックしメモしていた生徒のように授業に取り組むことができれば、逆に授業に集中することのできるきっかけになるとと思われる。

#### エピソード7：授業中にクラスメイトに質問をする先生

2人で1つの机であり隣の生徒と話すなどしていて高校2年生の地理の授業は静かなことはなかった。授業開始10分、ある生徒が隣の生徒に「地域によって言い方が違うってこと?」と質問しており、それに対して「そうだと思う」と答えていた。他にも「Artesian Water

とは何か？」というワークについても相談して記述をかいている様子も見られた。

**考察：**2人で1人の机でありすぐに私語もできる状況であるが、わからないところをすぐに聞くことができる状況でもあると思われる。特に、授業が質問に対して答えを考えて進める形式であったため、1人で黙々と考えてメモをする授業でなく、相談したり互いにわからないところを質問したりしながら進む授業は効果的だと考えられる。

### 3. まとめ

高校2年生の地理の授業は試験前ということもあり先生の説明が多かったが、小学1年生の授業も高校2年生の授業も、グループや隣の人と互いに相談したり質問したりしていることが見られた。教師が一方向的に進める講義型の授業だと、わからない問題があっても主張が苦手な生徒だと質問することができずに授業が進んでしまう。そのため、わからないところをきくことのできる人がいるというのは学習に効果的である。また、「他の人に教える」ことの平均学修定着率は90%となっていることから、授業中に説明することで説明する側も学習内容を定着させることができる。また、受け身の授業ではなく、能動的に作品を作ったり、質問をしたり、相談したりという点で、生徒の「自主性」が表れている。桐朋小学校においては、遊具を生徒自らが考えるなど「自主性」を大事にする活動が見られる。このように校風が授業における生徒の態度を少なからず規定していると考えられる。

また、どちらの授業も質問形式であった。これは桐朋学園の教育方針を「自主性」としているために、自主性を養いまたその自主性を活かす場としていることが現れていると考えられる。

### 4. 参考文献

- 1)白井 靖敏 アクティブラーニング(グループ学習)の経験に基づく学習タイプ 名古屋女子大学 紀要 57(人・社)117~125 2011
- 2)名古屋商科大学ホームページ  
<https://www.nucba.ac.jp/active-learning/>

## 添付資料 7-C 授業見学用シート

## 授業見学用シート

所属	ブロック	氏名
----	------	----

※書き方の詳細については裏を確認してください。

見学したのは→ 

ブロック
------

先生
----

 の 

(授業名)
-------

2019年 月 日( ) 時限: 1, 2, 3, 4, 5, 6

1. 生徒の様子に着目して、授業中に起きた「良い点」、「取り入れたい点」など、自分が再現(強化・改善)したいと思ったことをメモしましょう。(そのように思った根拠も明示しましょう)  
【気づき欄】

2. 自分が再現したいと思った内容は、授業者のどんな活動に支えられていたと思いますか？以下の4つの分類を意識しながら書いてください。分類方法は裏を参考にしてください。

項目/具体例	授業者の効果的な活動	取り入れて実践する上での疑問
A しくみ 目的、目標、構成、 ルール、雰囲気等		
B しかけ 道具、題材、問題、 ワークシート等		
C 教え方 専門知識、板書、 声の調子、 ティーチングスキル		
D 支え方 場をつくる、場を読む、介 入する、ファシリテーショ ンスキル		

自分の授業に活かす上での留意点

- 1 一般解を求めない。(目の前の生徒に役に立つことを考えましょう)
- 2 負担の少ない改善を考えましょう。(毎日続けられる授業改善を！)
- 3 生徒の声を聞きましょう。(生徒の声が高いのアドバイス&ヒント)
- 4 仲間の力を借りましょう。(話してみる。質問してもらう)

## 見学用シートの使い方

1 他人の授業を見学する目的は「自分の授業に活かせるヒントを得る」ためです。以下に注目して下さい。

- (1) 授業者の言動だけに注目しないで、むしろ、生徒たちに目を向けてください。  
特に「クラス全体や各グループの雰囲気とその時間的变化」、「生徒の発言や行動の様子やその時間的变化」に注目してください。それもできるだけ「良い点」「取り入れたい点」に注目します。
- (2) それらを【気づき欄】に記入してください。可能であれば、「そう感じた具体的な根拠(事実)」もメモしておいてください。(例)クラス全体に活気がある感じがした。  
(笑顔の生徒が多い、下を向いている生徒やじっとしている生徒がほとんどいない)
- (3) ここに書いたことが、この授業で「いいな」と感じたところです。

2 次に【気づき欄】でとりあげた「良い点」を自分の授業で再現するためのヒントを考えます。

- (1) その「良い点」は必ず担当教師がしている「何か」が原因になっています。その原因を探り、それと同じことを自分が実践できたら、その「良い点」を再現できる可能性が高い、と考えています。
- (2) そこで、表にあげた「4つの観点」を手がかりに、授業者の実践のどこが「良い点」を支えているのかを考えて記入します。  
(例) 良い点「生徒が先生に頼ることなく互いに協力して問題を解いていた」
- (3) ここで考えたことを、自分で実践に移そうと具体的に考えると、疑問が生じます。それを、右側の欄に記入して下さい。  
(例) 授業者の効果的な活動 → 実践するときの疑問  
「チームで協力するというルールが効果的」→「あのルールはどうやって考えついたのですか？」

「練習問題の配列や数が生徒の能力にマッチしている」  
→「練習問題の質や量はどのようにして、決めているのですか？」

「簡潔で短い説明だから演習時間を十分に確保できる」  
→「簡潔な説明をするためにどんな準備をしていますか？」

「『チームで協力できていますか?』の介入が効果的だった」  
→「どのチームに、いつ、なんと言って介入するかの指針はありますか？」

3 素朴な疑問が大きな効果をもたらすこともあります。色々な質問、疑問をメモしておいてください。

## いのちをつくるものとは

(原文)

長谷川 彩華 (17歳)

東京都

桐朋女子中学校・高等学校

去年から今年にかけて、私は犬を2匹飼い始めた。彼らは、野生に生かされず、わたしたちの下で、私たちの家族として、人間のような生活をしている。ご飯を与えられ、互いに遊びあったり、歯磨きしてもらったり、排せつ物を片付けてもらっている。彼らは、私たちや、仲間なしでは生きていけない。

子ども・大人問わず、人間も同じだ。「いや。人間は一人で何でもできるだろう」そう反論したい人もいるかもしれないが、はたしてそうなのだろうか。

日本語には「一匹狼」や「ひとりぼっち」のように、独りである人を表す言葉が存在する。しかし、彼らにも家に帰れば家族がいる。たとえない場合でも、ご飯を食べにお店に入れば、「いらっしゃいませ」と迎える人、つまり、思いやってくれる人がいる。

「いのち」とは、思われているもの、そして思われ続けられているほど存在しうるものである。私の周りに、思われ続けながら、頑張っている人がいる。私の祖父だ。

私の祖父は、二度死にかけてことがある。二回とも、いのちがもう少ないといわれ、祖母と私の母、そして母の兄弟が呼び出された。コロナ禍であったこともあり、私と妹は病院へ行くことができなかったが、思い続けることはできた。思い続けるうちに、祖父はまだ生き続けているという確信を持つようになった。

確信は、本当だった。それから、どんどん祖父の容態は良くなり、自力で歩けるようにまで回復した。私は今も、容態が良いままであるように、ずっと祖父のことを思い続けている。

一方で、私が思いやっていると伝えたくても、届かない人たちもいる。例えば、コロンビアで税制改定についての抗議を頑張っている人々や、パレスチナで空爆を受けている人々だ。彼らは、生きること必死な、周りからの思いやり・応援が必要な、いのちである。直接話すことや、手紙を出すことは難しい。そこで、私は、ネット署名や、寄付をすれば、彼らに届くのではないかと考えた。彼らが、「私たちのことをこんなにも多くの人々が思いやってくれているのだ」と実感してほしいからだ。

このようにして相手を思いやることは、私たちからの一方的な思いやりではない。私が思いやっている祖父は、私のことをいつも褒めてくれる。顔を合わせると、いつも嬉しそうだ。祖父も私のことを思いやってくれている。私が寄付をした団体からは、何に役立てられたのかという説明と一緒に、感謝のメールが届いた。そして私が賛同したオンライン署名も、どんどん実行されて行くと共に、「賛同あ

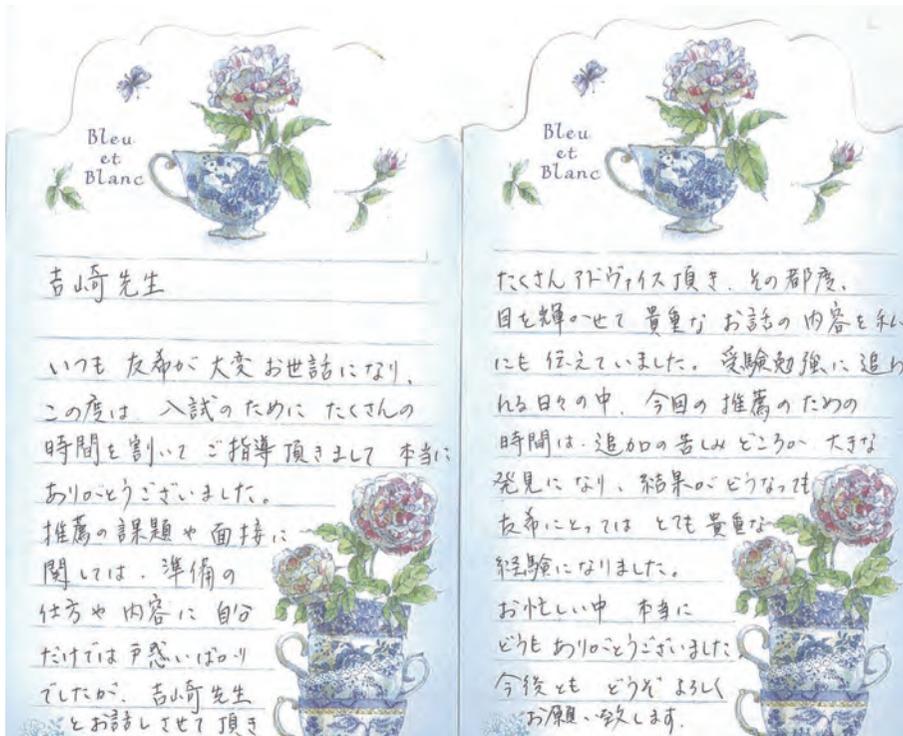
りがとうございました」というメッセージが送られてきた。相手は私の顔も、どんな人間なのかも知らない。だが、感謝と言う形で、思いやりを示してくれた。私は、知らない人から感謝されることが、こんなに嬉しいとは思っていなかった。私の思いやりは、彼らから私への思いやりでもあった。

思いやることは、個人と個人の間でもできるし、個人と団体の間でもできる。時には、実際に会ったことがない誰かによって思いやられていることさえある。誰のいのちも、家族や友だちに限らず、会ったことのない誰かに思いやられてできている。

しかし、生き物には必ず最後が訪れる。死んでしまったら、いのちはなくなるのだろうか。私たちが思いやっているいのちは、いずれ無くなってしまふのだろうか。私はそうは思わない。「いのち」はなくなってしまうても、誰かがその人のことを思い続けることで「いのち」は存在し続けると思う。思い続けられれば、彼らとの思い出は消えないし、私たちは彼らが生きていたという生き証人になるからだ。

私たちが、「いのちとは互いに思いやることであり、思い続けることは、いのちの消失による悲しみをも軽くする」ということを、心に止めておけば、日頃から周りの人を思いやれるようになり、思いやりにあふれる社会が作れるのではないだろうか。思いやりでいのちを守ることは、平和な世界への第一歩である。

添付資料 7-E 受験生の保護者からの手紙



# PBLメッセ 2021



## — 激動の時代のPBL —

予測不可能な時代に必要な汎用的能力を育むPBLという学びは、今回のコロナ禍という事態に、どのように適応したのか、またすべきなのか。

国内の先進的なPBLの実践事例を学校種を超えて共有し、PBLで育むべき資質・能力の議論を更に深める。

2021年6月26日（土）13：30～17：40  
東京電機大学 東京千住キャンパス 5号館5203  
および Zoomでの 同時ハイブリッド開催



### 第1部

開会式の挨拶 市川 洋子（日本PBL研究所理事長）

PBLアドバイザー 認定式

基調講演 「コロナ禍で問われるPBLのリジリエンス」

広石英記（東京電機大学）

### 第2部

校長 松山清美 名古屋市立矢田小学校  
PBLを取り入れた「わくわく学習」の実践

教諭 尾形望 グリーンヒルズ小学校・中学校  
人と社会がつながるプロジェクト学習  
～災害復興への自分たちの関りを探究する～

教諭 吉崎亜由美 桐朋女子中学・高等学校  
PBLを取り入れた高等学校地理の授業デザインと生徒の変容

教諭 藤枝尉将 八王子実践高等学校  
PBL型授業で獲得する主体性と社会貢献意識

准教授 近藤裕子 山梨学院大学  
PBL型ライティング教育の実践

教授 布柴達男 国際基督教大学  
大学の一般教育科目「環境研究」でのPBLの実践  
～コロナでも止まらない学び、主体的アクション～



主催：特定非営利活動法人 日本PBL研究所 info@pbl-japan.com

添付資料 8-B NPO FENICS イベント 人間を育むフィールド(ワーク)教育

**FENICS**  
Fieldworker's Experimental Network  
for Interdisciplinary Communication

**2021.12.5 (Sun)**  
**13:00~16:00**

**FENICSイベント**  
**人間を育むフィールド(ワーク)教育**  
**- 学びの余白と自己変容 -**

私たちの社会の行く末がますます不透明になるなか、この社会を支える教育のあり方も大きな変化を求められています。なかでも「座学」だけでは得ることのできない、そして幅広い人間力を高めることが期待できる「フィールド(ワーク)教育」に注目が集まっています。

本イベントでは、本年度になってから出版された二つのフィールド(ワーク)教育に関する書籍の編者と執筆者たちが、これからの教育における「現場での育み」の可能性を語り合います。

<https://fenics.jp/info/2021-12-5/>

※事前登録は必要ありません。上記のURLかQRコードからイベント詳細ページに進んでください。  
※視聴後には、簡単なアンケートにお答えいただければ幸いです。ご意見は今後の教育活動に活用させていただきます。

**Part 1. トークセッション (13:00-13:40) 司会：小西公大 (東京芸芸大学)**

- ・『人類学者的なフィールド教育』紹介 箕曲在弘 (早稲田大学)
- ・『現場で育むフィールドワーク教育』紹介 増田研 (長崎大学)
- ・「フィールドワーク×育み・学び」に関するフリートーク

**Part 2. 教育現場からの事例紹介 (13:50-14:50) 司会：二文字屋脩 (愛知淑徳大学)**

- ・飯塚宜子 (京都大学) <異文化教育、小学生>
- ・吉崎亜由美 (桐朋女子中・高等学校) <地理・ESD・中高生>
- ・井上英治 (東邦大学) <サル学、大学生>

**Part 3. 全体ディスカッション (15:00-16:00) 司会：増田研 (長崎大学)**

- ・「これからのフィールド(ワーク)教育」編者&執筆者
- ・コメンテーター：白石壮一郎 (弘前大学)

主催：NPO法人FENICS  
お問い合わせ：fenicsevent@gmail.com

#### コラム④ 高校生の声～高等学校・地理での2時間の授業から

作成中の本教材を使って、高校3年生を対象に2時間続き（100分）の授業「サステナブルで豊かなファッション」を行いました。

「服クイズ」や「服の一生・どこからどこへ」では、「綿花を育てるために一着当たり2,300ℓの水や大量の薬品が使われ、様々な労働者が低賃金で働かされているという工程が印象に残った。私が持っている服は100%綿が多かったので、そのような工程を踏んでいるとは思わなかった」、「服を洗い、乾燥機を使う時、自然乾燥より13倍ものCO2を排出することに驚いた。洗濯が環境破壊に影響を与えているのは分かっていたが、具体的な数値を見て、人口を考慮するといかにCO2をたくさん出しているのか気づき、恐ろしくなった」、「我が家では着られる服は売るか、部屋着に回す、親戚に譲るなどするのが大部分を占めるから、60%以上が焼却されていることに驚いた。肌触りや性質がコットンに似ていて、環境にやさしい生地作りはできないのか」などの感想がありました。最後に、1人ひとりが、素材、生産方法などにこだわった「未来のファッション・未来の制服」（33頁参照）をデザインしました。

また、高校2年生を対象に2時間続き（100分）の授業で映画『ザ・トゥルー・コスト』を視聴し、考えたことを600字にまとめました。「服以外のものでも何か買う時には、どの国でつくられているのか、自分がこれを買うことでどうなるのかなど考えるようになった」など、気づきや行動変容につながるようになりました。

（吉崎亜由美）

## 添付資料 8-D SDGs for School に掲載 PBL フィールドで社会問題に出会う

<http://www.thinktheearth.net/sdgs/2020/05/29/info23/>

## PBLフィールドで社会問題に出会う

実施校: 桐朋女子高等学校 教諭名: 吉崎亜由美

<b>対象</b>	高校3年生	<b>単元名</b>	PBLフィールドで社会問題に出会う
<b>科目</b>	決定者講座	<b>目標</b>	<p>その1 プロジェクトの企画書を作成し、プロジェクトの意義を考える</p> <p>その2 新大久保フィールドワークを通して、社会問題を切り取り、問いを立てる</p> <p>その3 実在する人物から入手した情報をもとに、新大久保の社会問題を提起し、その解決方法を提案する作品を作成する</p>
<b>時間</b>	8時間+α	<b>参考資料</b>	『アイデアブック』 椎野若菜・白石壮一郎編 (2014)『フィールドに入る』 古今書院
<b>期待できる学習効果</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワークを通して観察力を養い、自ら問いを立て、取材することで、思考力、積極性を養う</li> <li>・話し合いを通して問いを深め、プロジェクトの計画を立て、ゴールを設定することで、自主性、協同性を養う</li> <li>・自ら設定したゴールに向かって、毎回振り返りを行いながら、作品を作成することで身につけたい力を養う</li> </ul>			
<b>授業内容</b>			
<p>第1回 プロジェクトの企画書を作成し、プロジェクトの意義を考える 『アイデアブック』や椎野若菜・白石壮一郎編(2014)『フィールドに入る』古今書院の抜粋、プロジェクトの企画書の用紙を配付した。Google Classroomに登録して、情報の共有を行うシステムをつくった。次回の新大久保フィールドワークに向けて、問いを立て、ゴールを設定し、プロジェクトの意義やプロジェクト学習を通して身につけたい力などを考え、企画書を作成した。当初は、個人のプロジェクト学習を想定したが、生徒がグループによる作品作成を希望したので、グループ毎に話し合いながら、企画書を作成した。</p> <p>第2回 新大久保フィールドワーク 雨が降る非常に寒い平日の13時20分からグループ毎にフィールドワークを行った。15時に再集合した際には、順調に観察、取材を行うグループがあるのに対し、ほとんどのグループは、何軒も取材を断られ、意気消沈したり、街の雰囲気に圧倒され、チーズドッグを食べただけで戻ってきたりと、プロジェクトの計画通りに進まない様子であった。しかし、15時に解散した後、ほとんどのグループはその場に残り、冷たい雨の中、2時間以上も観察取材を続け、粘り強くフィールドワークを行った。</p> <p>第3回 作品を作成することで、社会問題を提起し、その改善策を提案する グループ毎に話し合いをしながら、問いを立て直し、フィールドから得られた情報を分類、取捨選択しながら、社会問題を提起する作品作りを始めた。</p> <p>第4回 作品を作成し、Google Classroomに投稿する。プロジェクトの企画書を利用して、振り返りを行う。 自宅で動画の編集を行ってきたグループも複数あり、どのグループも大変意欲的に作品づくりに取り組んだ。パワポに声を吹き込んで、オーディオピクチャーを作成したり、動画を編集したり、ピクトグラムを作成したりしながら、各グループが設定したゴールに向かって、作品づくりを続けた。できあがった作品は、Google Classroomに投稿し、お互いに見合った。最後に、自ら設定した身につけたい力が達成できたか、プロジェクトの意義や問いが達成できたかについて、企画書をもとに振り返りを行った。</p>			

## PBLフィードで社会問題に会う

実施校: 桐朋女子高等学校 教諭名: 吉崎亜由美

### 授業の様子



新大久保フィールドワークでの取材

生徒が作成した多言語避難誘導看板



### 子どもたちの反応・感想

新大久保フィールドワークを通して、生徒が立てた問いとゴールは、以下の5つである。

- ・みんなの街 → 共存するための方法の確立
- ・多言語避難誘導看板 → 外国人への災害対策の啓発
- ・多国籍の地域でのマナー → 文化や習慣、感覚の違いによっておこる問題の解決策を見つける
- ・日本人と外国人が共生する新大久保にするために → 新宿多文化共生プラザをもっと知ってもらう
- ・新大久保のまちの移り変わりから学ぶ外国人の受け入れ方 → 外国人が日本で働きやすくなる

また、プロジェクト学習を通して生徒が身につけたい力は以下の通りである。

- ・情報の取捨選択・内容をまとめる力・協調性・考え抜く力
- ・働きかけ力、実行力、創造力・傾聴力、実行力、創造力・話を聞く力、実行力、主体性・計画力、実行力
- ・実行力、計画を立てて、考える力・計画力、実行力、思考力・デザイン力、思考力

プロジェクト学習を行った生徒の感想は以下の通りである。

- ・前もって準備していたがやはり時間はかかった。新大久保というテーマから自分でどのような問題なのかを見つけ、提案するのが難しかった。取材したものをすべて入れずに、取捨選択できたと思う。何とか、プロジェクトのゴールを上手く提案できたと思う。
- ・パワーポイントを完成させ、他の人の作品を見た。プロジェクトのゴールを達成できたと思う。
- ・テーマが決まらず迷滞したが、「今ある施設をよりよくするための提案をするという形」でおさまった。結果、よい提案ができたと思う。外国人が日本人と交流できていなかったりそのような施設の存在を知らないという現状があることを知った。
- ・つくれた！進んでインタビューの店に入ったり、まとめの文を考えられたりした。がんばりました！
- ・自宅で計画を3人でつくることができた。前日にギリギリの作成になってしまったので計画力は△。インタビューはたくさんできたので実行力は◎。・チームワーク力をパワポの作成によって、身につけられた。



地域×桐朋女子  
→地域に根付いた学校になる為に→

## 桐朋女子の教諭 吉崎亜由美先生へのインタビュー

吉崎先生が考える桐朋女子が地域に根付くためにできること

**Q** 地域に根ざした学校になる為に、現在取り組んでいることは何ですか

A. 学校と地域がつながる活動を推進、支援しています。地理や部活動のフィールドワーク、高3決定者講座を通して、地域を見る視点を学び、地域の課題を発見し、その課題の解決策を考え、実行する主体性・行動力を養うことが、大切だと思います。そして、地域清掃や選挙啓発活動などのボランティア活動を生徒主催で行うための支援をしています。生徒に活動の場を提供するだけでなく、私自身も大学やNPOの研究会、学会に参加し、先進的な地域連携の活動実践や理論を学んでいます。

**Q** 桐朋女子の魅力は何ですか

A. 「こころの健康、からだの健康」という教育の基本を目標に掲げていることです。また、桐朋女子では、「経験学習」を通して、生徒の主体性を育むこと、そして、生徒に寄り添い「対話」による教育を目標としています。経験

を言語化することを通して、生徒の創造性を養い、時代を担うリーダーを目指す教育を行っています。

**Q** 桐朋女子をどのような存在にしたいですか

A. 教育目標を実現するために、桐朋生が地域や社会で学び、地域・社会で育ち、地域や社会と連携しながら、課題を解決し、桐朋文化を通して、“地域に豊かさをもたらすことができるような学校”にする事が私の夢です。

インタビューを通して

吉崎先生の授業は、会話で溢れていて楽しかった。疑問に思ったことや分からないことを口に出すことで、新たな課題が見つかる。生徒間だけでなく、先生との“対話”を通して行われる授業は、とても魅力的だ。

取材・文 渡邊貴子

添付資料 8-F

東部公民館×桐朋女子連携企画

『令和3年第66回調布市市民文化祭 東部地域文化祭』に掲載

エントランス

### 地域展示(学校連携)



滝坂小学校わかくさ学級



第八中学校 美術部



第四中学校 美術部



### 東部公民館利用団体連絡会



DVD 上映 於 保育室  
(サークルの活動紹介)

会場：保育室 (毎日上映)

Zoom でこんにちは！  
(東部地域文化祭中継)

11/2(火)午後 3:30～

★事前にメールで要申込・IDとパスコードを配布



こちらの二次元コード  
をお使いください

### 玄関装飾



サークル  
ポスター

昨年の  
玄関装飾



### 交流 企画

#### 桐朋生ミニビブリオバトル ～中学生のすすめる熱い本

日時/10/30(土) 午後 1:30～3:30

会場/桐朋学園 E115 教室

(東部児童館ゆうぎ室に変更もあり)

出演/桐朋女子中学生 8人、シニア 2人

内容/本の紹介を聞き、心動かされた本を全員の投票で決定

対象/公民館利用者とその家族

定員/申込み順 30人

申込/電話と窓口で東部公民館へ



## 見学・体験・展示

10/14(木)  
～26(火)

## プレ文化祭

期間中、サークル活動見学にお気軽にお越しください。★は体験もアリ。詳細は東部公民館 03-3309-4505へ。(高尾山登山体験のみ要事前申込)

<p>10/14(木)</p> <p>10:00～11:30 学習室</p> <p>14:00～16:00 会議室</p> <p>脳トレリトミック「とも」 (大人のリトミック) ★</p> <p>東部短歌の会 (短歌作品発表と批評)</p>	<p>10/20(水)</p> <p>13:00～15:30 和室</p> <p>東部暮友会 (囲碁対局) ★</p>
<p>10/15(金)</p> <p>10:00～12:00 学習室</p> <p>13:30～16:00 和室</p> <p>オカリナ土音 (オカリナ練習)</p> <p>東部百人一首の会 (かるた練習と講義) ★</p>	<p>10/23(土)</p> <p>9:00～14:00</p> <p>四季歩会 (高尾山体験登山) ★要申込</p> <p>集合/京王線高尾山口駅改札(集合・解散) 対象/山歩きのできる方 定員/申し込み順6人 費用/無料 持物/弁当, 雨具, 山歩きできる服装等 詳細/四季歩会会員から電話連絡 申込/10月6日(水)午前10時から電話と窓口で</p>
<p>10/19(火)</p> <p>10:00～12:00 学習室</p> <p>13:30～15:30 学習室</p> <p>14:00～16:00 学習室</p> <p>朗読やまなし (「葉っぱのフレディ」) ★</p> <p>ペン字虹の会 (文化祭展示作品仕上げ) ★</p> <p>カリグラフィー薫風の会 (アラビア文字書体の練習) ★</p>	<p>9:15～11:40 学習室</p> <p>10:00～11:30 和室</p> <p>14:00～15:30 和室</p> <p>もり杜の会 (絵画制作) ★</p> <p>仙川体操クラブ (ストレッチとヨガ)</p> <p>東部フォトクラブ (撮影技術の学習と講評) ★</p>
<p>10/15, 22(金)</p> <p>15:30～17:00 学習室</p> <p>地域でSDGs カードゲーム ～東部公民館 with 桐朋女子中・高生徒会</p> <p>東部公民館利用者と、桐朋女子中・高校生のSDGs カードゲームを通じた交流の様子を見学できます。</p>	<p>10/24(日)</p> <p>13:30～15:30 学習室</p> <p>10/26(火)</p> <p>10:00～11:00 和室</p> <p>期間中</p> <p>9:00～20:00 回廊</p> <p>太極拳わかば (太極拳の練習) ★</p> <p>ゆったりストレッチ (ストレッチ)</p> <p>桐朋女子中・高等学校 書道部・社会歴史研究部</p>



## 「調布市ほっとインフォメーション」に出演！

- 10/15(金) 「朗読やまなし」 朗読作品をオンエア
- 10/20(水) 「四季歩会」 東部地域文化祭をPR

時間 13:30～13:45 (生放送)  
各回再放送①16:00 ②21:00

- スマホ、パソコンでも聴けます。
- ・パソコン:「リスラジ」と検索
  - ・スマホ:「リスラジのアプリ」をダウンロード



(1)

2022年4月1日

# 東部公民館だより

発行・調布市東部公民館 〒182-0003 調布市若葉町1-29-21

TEL (03)3309-4505

FAX (03)3305-3456

E-mail: [toubuk@w2.city.chofu.tokyo.jp](mailto:toubuk@w2.city.chofu.tokyo.jp)



メールアドレス



イベント一覧

## 4月号

令和 4年4月1日

## No.393

地域連携事業

## 「心を通わせる

# コミュニケーション講座

全3回

普段、何気なく行っているコミュニケーション。ひと手間かけて意識することで、コミュニケーションに変化が生まれます。相手の話を聴いたり、相手の話を引き出す質問をしたりしながら、職場や家庭、サークル活動で、心を通わせ、信頼関係を築くコミュニケーションとは何かを学びます。講座の2回目では、高校生からインタビューを受け、質問を聴いて答える実践をします。多世代間の交流も楽しんでみませんか。

- ① 5月14日(土) 「相手の話を聴く〜マインドフルリスニング(傾聴)」
- ② 6月15日(水) 「高校生のインタビューに答える〜私の中高校生時代」
- ③ 7月9日(土) 「相手に質問する〜話を引き出す質問のしかた」

時間/①③午後2時〜4時 ②午前11時15分〜12時30分

会場/①③東部公民館 学習室 ②桐朋女子中・高等学校

講師/吉崎 亜由美さん(桐朋女子中・高等学校 社会科教師)

定員/申込み順22人

費用/無料

持物/筆記用具、マスク

申込/4月23日(土)午前9時から、電話または直接東部公民館へ



### 講師より

桐朋教育研究所主催のコミュニケーション講座の開設に関わったり、中高生の社会科や(進路)決定者講座で対話による授業を行ったりしています。「コミュニケーション」が劇的に変わる近道はないのかなと思っています。コミュニケーションで大切なのは、相手の話を聴くことです。相手との心の架け橋・心が通い合う関係ー「ラポール」を築きながら、相手の話を引き出す質問のつくり方について、一緒に学んでみませんか。

### 「ウクライナ人道危機救援金」募金箱設置のお知らせ

日程/火曜日から土曜日(祝日を除く) 午前9時〜午後5時

締切/5月31日(火)まで

問合せ/調布市福祉総務課 042-481-7101

\*新型コロナウイルス対策のため、事業中止・変更の際はご容赦ください

## 添付資料 8-G DLP 異文化理解講座ワークシート

ワークシート 高2地理 B×コース

13:20~15:00/6/December / 2021/本311

**Dual Language Program(DLP) 異文化理解講座 Cross-cultural understanding**

◎DLP の3つの柱「ことばの力」「世界を読み解く力」「高度な英語発信」を実践してみましょう！

※1・3を発表するのであらかじめ準備してください。 \_\_\_\_\_ 組 \_\_\_\_\_ 番氏名 \_\_\_\_\_

1. Edgar Santiago さんへのご挨拶(歓迎のことば、桐朋女子の紹介、自己紹介など)を英語で書いて下さい。

2. Edgar さんの出身国メキシコの話の中で、面白い・興味深いと思ったことを英語か日本語で書いて下さい。

3. Edgar さんに質問してみたいことを英語で書いて下さい。(質疑応答の時間を20分とります。)

振り返りシート **Dual Language Program (DLP)** 13:20~15:00/6/Dec./2021/本 311

4. 印象に残った Edgar さんの話は何でしたか？その理由も英語、または日本語で書いてみましょう。

5. Edgar さんの話を聞いて、もっと知りたいと思ったことはありましたか？メキシコのイメージは変わりましたか？英語、または日本語で書いてみましょう。

6. DLP 異文化理解講座を受講して、どのような気づきがありましたか？英語で異文化を学ぶことを通して、あなたの中で変化はありましたか？英語、または日本語で書いてみましょう。

7. 最後に Edgar Santiago さんへのメッセージを英語で書いてください。

(1) 令和3年10月11日 (月曜日)

山 み ず

第212号

# パンデミックから 私たちは何を学ぶのか

現在も続くコロナ禍の生活を経て、私たちはこのパンデミックによってもたらされた様々な事柄とどのように向き合い、今後どのように生きていったらよいのか。この試練から私たちは何を学び、どのような新たな視点や考え方を持つべきなのか。一人一人が自分はどう考えるのか、なのであり、各自自覚をもって行動することが求められている。

今回、コロナ禍において医療現場で様々な困難や苦労を経験した医療従事者の方から、私たちは何をききとり、考え、感じたのか、その一端を紹介したい。



発行所  
桐朋女子 中 学校  
高等 学校  
山みず編集部

東京都調布市若葉町  
1-41-1  
TEL.03(3300)2111

編集発行責任者  
桐朋女子 中 学校  
高等 学校  
山みず隊 ~ 紫有志



2020年3月から5月まで学校はコロナ感染対策によって、休校を余儀なくされた。そして分散登校による学校生活が再開し一斉登校になるも、学校時は2021年4月から現在に到っても、短縮授業が続いている。昨年2020年の緊急事態宣言以降、宿泊行事や体育祭などの学校行事も、中止や延期などが強いられている。その後、緊急事態宣言の延長となり、夏休み明け9月の学校生活も、分散登校となり3週間を経て、9月21日から一斉登校となった。そのような状況下において私たちは、これまでの学校生活を取り戻す、という考え方ではなく、これまでのありかたにこだわらない新しい学校生活を作り上げていかなくてはならない、ということを徐々に認識しつつある。今、2021年5月20日 高等学校2年地理Bの授業において、「医療従事者の方々と桐朋生の対話」によるオンライン特別授業が開催された。

## はじめに

2021年5月20日、ねりま健育会病棟の酒向正春院長をはじめとする医療従事者の方々と、今年度地理Bを履修している高等学校2年の生徒との対話がオンライン形式で行われた。ねりま健育会病棟は、大きな病気がけがなどによって身体が弱った患者さんを普段の生活に戻れるようにサポートするリハビリテーションを中心に、院内でクラスターが発生した。酒向先生は脳リハビリテーション医という立場から、クラスター発生時の院内の状況や当時の病院スタッフの生活変化や精神的な面まで、鮮明に伝えられた。

## 酒向先生からの講演

とで、当時の病院内の過酷さ、医療従事者の方の大変さを知り、1人1人の心に響いたものがあつた。私たちが生徒として、この対話はコロナ禍を生きる自分自身の行いを見つめ直す良いきっかけとなつただろう。

## 酒向先生の病院で行っていること

この病院では「回復が難しい」と言われた患者さんを科学で治すという治療を行っている。リハビリ医学は元々、戦争中のけがで動けなくなった人を回復させるためのものだった。体が動かない、身体の回復だけではない、脳の回復も必要になる。そこで、この病院では、脳科学とリハビリを組み合わせた脳リハビリテーションを行っている。例えば、くも膜下出血で寝たきり状態になった患者さん、家族から「もう一度口で食事をできるようにしてほしい」、「会話がしたい」、「家で一緒に生活を送りたい」などの要望を送りながら、20名を年単位で治療。リハビリを重ねて改善していき、このような、人間力を回復させることを目的としたリハビリを「攻めのリハビリ」というそう

## クラスター発生原因

後広まったWEST棟で感染が収まったのは12月31日と、それぞれおよそ1か月間はウイルスと共存しながらの生活を送つた。

ウイロスは持ち込まれる経路は新入院・入所患者または職員である。病院内の認識として、転院患者は社会に外出している人々とは違い、病院というある程度制限された環境で過ごしている人であるため、感染の危険は少ないだろうと考えていない。この判断が、感染拡大に繋がってしまった原因の一つである。コロナウイルスの対応は誰にとっても初めての経験であったため、水際対策が不完全になってしまったのは仕方ないことだった。

その後、持ち込まれてしまったウイルスに関して、院内でウイルスが広がる原因として考えられるのは飛沫感染と接触感染である。飛沫は、食事・余暇の時間で飛びやすいため、リハビリに欠かさない介助の際に接触は避けられない。このように、「転院患者」に対する油断と接近・接触を避けられなかったという点が、この病院でクラスターが発生した原因であると考えられている。

<p>行っていた対策 クラスター発生前からある程度の感染対策は行われていた。この病院で行われた対策は主に以下のとおりである。まず、患者さんは感染していないことを念に確認し、完全に安全な状態にした。面会・外泊は禁止とし、ウイルスを持ち込ませないことを徹底した。職員に関しては、日々の検温など、各自の体調管理を強化し、館内に関しても、1日3回の清掃と換気、スタッフの移動制限をした。しかし、患者さんに対してはマスクの強制をしていなかったこと、手指衛生が足りていなかったこと、隔離服を設置したりしていなかった点など、対策にも不十分な点も多かったそう</p>	<p>フェイスマスクの着用など、クラスターにならないための感染対策が継続された。</p>
<p>●コロナで受けたいメッセージ 様々な面でダメージを与えて、患者さんには感染による様々な状況があった。本田先生から高校生へ授業をする提案を生かされました。高校生に現場の生の声を聞いてもらう思いと、高校生と対話すること、こちら側も元気がもたえるのではないかと、思いからその授業を決定しました。</p>	<p>●コロナで受けたいメッセージ 様々な面でダメージを与えて、患者さんには感染による様々な状況があった。本田先生から高校生へ授業をする提案を生かされました。高校生に現場の生の声を聞いてもらう思いと、高校生と対話すること、こちら側も元気がもたえるのではないかと、思いからその授業を決定しました。</p>
<p>生徒からの質問 ●どうしてこの授業を開いてくださったのですか？ ●クラスターが発生し、絶望的な状況だったころに、本田先生から高校生へ授業をする提案を生かされました。高校生に現場の生の声を聞いてもらう思いと、高校生と対話すること、こちら側も元気がもたえるのではないかと、思いからその授業を決定しました。</p>	<p>●どうしてこの授業を開いてくださったのですか？ ●クラスターが発生し、絶望的な状況だったころに、本田先生から高校生へ授業をする提案を生かされました。高校生に現場の生の声を聞いてもらう思いと、高校生と対話すること、こちら側も元気がもたえるのではないかと、思いからその授業を決定しました。</p>
<p>●コロナ禍での仕事のやりがいはあるんですか？ ●今までコロナ患者を診たことがなかったため、戸惑いはありました。クラスターが収まってから、患者さんが再開されるのが一番のやりがいです。</p>	<p>●コロナ禍での仕事のやりがいはあるんですか？ ●今までコロナ患者を診たことがなかったため、戸惑いはありました。クラスターが収まってから、患者さんが再開されるのが一番のやりがいです。</p>
<p>●対策の中で、不十分だったと考えられる点はありませんか？ ●大切なのは、1人1人がどれくらい認識を持つかだと思います。危ないか危なくないかの判断はもちろん、自分は大丈夫かなと思わず、「大丈夫なはずがない」と考えることが必要でした。</p>	<p>●対策の中で、不十分だったと考えられる点はありませんか？ ●大切なのは、1人1人がどれくらい認識を持つかだと思います。危ないか危なくないかの判断はもちろん、自分は大丈夫かなと思わず、「大丈夫なはずがない」と考えることが必要でした。</p>
<p>●職員さんの間でコミュニケーションをとることは必要ですか？ ●みんなの本音が言えるようにしたことです。慣れない環境で、逼迫した環境にいると誰もが不満を抱えています。お互い、声に出して話をすることでストレスを抱え込まないようには、コミュニケーションを取りつらい環境ですが、だからこそ意識をしてコミュニケーションをとっていくことは大切にしていきます。</p>	<p>●職員さんの間でコミュニケーションをとることは必要ですか？ ●みんなの本音が言えるようにしたことです。慣れない環境で、逼迫した環境にいると誰もが不満を抱えています。お互い、声に出して話をすることでストレスを抱え込まないようには、コミュニケーションを取りつらい環境ですが、だからこそ意識をしてコミュニケーションをとっていくことは大切にしていきます。</p>
<p>●コロナの影響で一番変わったことはなんですか？ ●やはり、病院内でのコロナ対策、各自の体調管理もあり、大きく変わりました。職場では、約1年間マスクをした姿で仕事をしていたので、コロナ禍になってからこの病院で仕事をしていたスタッフは、患者さんがスタッフのマスクの無い姿を知らないまま接している状態になり、「そんな顔をしていたんだ」と驚かされたことでもあります。生活に関しても、自分がコロナに感染してしまうと、病院全体に影響が出てしまうので、まずは自分がかからないように「おうち時間」をつくるようにしました。なので、友達には全く合わなくなり、家族にも会いに行けませんでした。</p>	<p>●コロナの影響で一番変わったことはなんですか？ ●やはり、病院内でのコロナ対策、各自の体調管理もあり、大きく変わりました。職場では、約1年間マスクをした姿で仕事をしていたので、コロナ禍になってからこの病院で仕事をしていたスタッフは、患者さんがスタッフのマスクの無い姿を知らないまま接している状態になり、「そんな顔をしていたんだ」と驚かされたことでもあります。生活に関しても、自分がコロナに感染してしまうと、病院全体に影響が出てしまうので、まずは自分がかからないように「おうち時間」をつくるようにしました。なので、友達には全く合わなくなり、家族にも会いに行けませんでした。</p>
<p>●コロナ禍の仕事で一番大変なことはなんですか？ ●世の中には「戦時」と「平時」がありますが、職員に「戦時」だということ意識を持たせることが大変でした。仕事内容に関連しては、物の貸し借りに空間的にも時間的にも最低限にすることや、消毒のために拭けるもの、拭けないものと分けること、も苦労しました。また、クラスター発生時は、また、自分のスタッフが濃厚接触者に認定され自宅待機の人でも多かったため、人員が不足し、同じ時間にたくさんの方々の治療に当たらなければならぬ、という状況に、医療従事者の方々は、気が重く、買物や外出を控えているのにおかしい</p>	<p>●コロナ禍の仕事で一番大変なことはなんですか？ ●世の中には「戦時」と「平時」がありますが、職員に「戦時」だということ意識を持たせることが大変でした。仕事内容に関連しては、物の貸し借りに空間的にも時間的にも最低限にすることや、消毒のために拭けるもの、拭けないものと分けること、も苦労しました。また、クラスター発生時は、また、自分のスタッフが濃厚接触者に認定され自宅待機の人でも多かったため、人員が不足し、同じ時間にたくさんの方々の治療に当たらなければならぬ、という状況に、医療従事者の方々は、気が重く、買物や外出を控えているのにおかしい</p>
<p>以下は、医療従事者の方々の感想 ●生徒からの対話を通して、生徒が感じたこと、学んだこと、出来事を中心に話していただきましたが、そのお話から、コロナウイルスの知識に関することや、日々の生活や将来の自分の進路にまで多岐にわたってそれぞれが感じ取って、今後の人生につながる決意がみられました。</p>	<p>以下は、医療従事者の方々の感想 ●生徒からの対話を通して、生徒が感じたこと、学んだこと、出来事を中心に話していただきましたが、そのお話から、コロナウイルスの知識に関することや、日々の生活や将来の自分の進路にまで多岐にわたってそれぞれが感じ取って、今後の人生につながる決意がみられました。</p>

<p>と感じた。</p> <p>◎今以上に医療従事者の方々へ感謝するべきだと思っただけでなく、自分が感染してしまっている中で働いてくたさっているのはすごい勇気がいることだと思っただ。</p> <p>◎自分の認識の甘さ</p> <p>◎コロナ予防をして入れも心のどこかで私は感染しないだろうと思っただが、誰でも感染するリスクがあるということを知り、改めて思った。</p> <p>◎自分や周りの人を守るための対策を怠らないようにしようと思っただ。</p> <p>◎コロナウイルスは他人事ではないことを身に染みて感じた。</p> <p>◎今までの自分の行動が無責任だったと感じた。</p> <p>◎コロナの怖さを改めて実感した。</p> <p>◎常に危機感を持つていたい。</p> <p>◎コミュニケーションなど人と人の関わりの方に大切さや、今後どのようなことになった方がいいか分かった。</p> <p>◎発信していくことの必要を感じた。</p> <p>◎精神面のケアの必要性がわかった。</p> <p>◎自分たちは差別するのではなく支えあっているのではないかと思っただ。</p> <p>◎差し入れ、会話で元気を送ってみたいと思っただ。</p> <p>◎オリンピックに関して、医療従事者の方々の話を聞いて、今行うべきではないと思っただ。</p> <p>◎ワクチンのお金も使われない、何より、ワクチンを打つていない選手が出てくると不公平というのを感じたため、行うべきではないと思っただ。</p> <p>◎ワクチンの存在の大切さに気付いた。</p> <p>◎ニュースでの報道が今起きていることすべてだと思わず、情報を冷静に受けとめることも大切だと思っただ。</p> <p>◎自分の進路に関する考え</p> <p>◎私は医療系のお仕事をしてみたいと思っただが、私は今回お話ししたてくださった医療従事者の方々のような使命感も、特出したやさしさもあるわけではないので、本当に自分になれるか、考えるきっかけとなった。</p> <p>◎「働く意味や目的がお金」ではなく、地域や世界への「貢献」だからこそコロナ禍でも働きたいと思っただ。</p> <p>◎私には看護の道に進みたいと思っただが、コロナウイルスの流行で少し気持ちが揺らいでいた。しかし、医療従事者の方が毎日頑張っていることを知り、私もたくさんの人のためにサポートしていきたいと思っただ。</p> <p>◎日々のモチベーションについて何ったとき、予想よりも私たちに身近なことだったため、驚いた。</p> <p>◎授業だけが勉強だと思わず、日ごろからさまざまなことに触れ、受け止めることも大切だと思っただ。</p> <p>◎今私たちが学校に通うことができていく環境の感謝の気持ちが強まった。(鈴木綾夏)</p>	<p>と感じた。</p> <p>◎今以上に医療従事者の方々へ感謝するべきだと思っただけでなく、自分が感染してしまっている中で働いてくたさっているのはすごい勇気がいることだと思っただ。</p> <p>◎自分の認識の甘さ</p> <p>◎コロナ予防をして入れも心のどこかで私は感染しないだろうと思っただが、誰でも感染するリスクがあるということを知り、改めて思った。</p> <p>◎自分や周りの人を守るための対策を怠らないようにしようと思っただ。</p> <p>◎コロナウイルスは他人事ではないことを身に染みて感じた。</p> <p>◎今までの自分の行動が無責任だったと感じた。</p> <p>◎コロナの怖さを改めて実感した。</p> <p>◎常に危機感を持つていたい。</p> <p>◎コミュニケーションなど人と人の関わりの方に大切さや、今後どのようなことになった方がいいか分かった。</p> <p>◎発信していくことの必要を感じた。</p> <p>◎精神面のケアの必要性がわかった。</p> <p>◎自分たちは差別するのではなく支えあっているのではないかと思っただ。</p> <p>◎差し入れ、会話で元気を送ってみたいと思っただ。</p> <p>◎オリンピックに関して、医療従事者の方々の話を聞いて、今行うべきではないと思っただ。</p> <p>◎ワクチンのお金も使われない、何より、ワクチンを打つていない選手が出てくると不公平というのを感じたため、行うべきではないと思っただ。</p> <p>◎ワクチンの存在の大切さに気付いた。</p> <p>◎ニュースでの報道が今起きていることすべてだと思わず、情報を冷静に受けとめることも大切だと思っただ。</p> <p>◎自分の進路に関する考え</p> <p>◎私は医療系のお仕事をしてみたいと思っただが、私は今回お話ししたてくださった医療従事者の方々のような使命感も、特出したやさしさもあるわけではないので、本当に自分になれるか、考えるきっかけとなった。</p> <p>◎「働く意味や目的がお金」ではなく、地域や世界への「貢献」だからこそコロナ禍でも働きたいと思っただ。</p> <p>◎私には看護の道に進みたいと思っただが、コロナウイルスの流行で少し気持ちが揺らいでいた。しかし、医療従事者の方が毎日頑張っていることを知り、私もたくさんの人のためにサポートしていきたいと思っただ。</p> <p>◎日々のモチベーションについて何ったとき、予想よりも私たちに身近なことだったため、驚いた。</p> <p>◎授業だけが勉強だと思わず、日ごろからさまざまなことに触れ、受け止めることも大切だと思っただ。</p> <p>◎今私たちが学校に通うことができていく環境の感謝の気持ちが強まった。(鈴木綾夏)</p>	<p>と感じた。</p> <p>◎今以上に医療従事者の方々へ感謝するべきだと思っただけでなく、自分が感染してしまっている中で働いてくたさっているのはすごい勇気がいることだと思っただ。</p> <p>◎自分の認識の甘さ</p> <p>◎コロナ予防をして入れも心のどこかで私は感染しないだろうと思っただが、誰でも感染するリスクがあるということを知り、改めて思った。</p> <p>◎自分や周りの人を守るための対策を怠らないようにしようと思っただ。</p> <p>◎コロナウイルスは他人事ではないことを身に染みて感じた。</p> <p>◎今までの自分の行動が無責任だったと感じた。</p> <p>◎コロナの怖さを改めて実感した。</p> <p>◎常に危機感を持つていたい。</p> <p>◎コミュニケーションなど人と人の関わりの方に大切さや、今後どのようなことになった方がいいか分かった。</p> <p>◎発信していくことの必要を感じた。</p> <p>◎精神面のケアの必要性がわかった。</p> <p>◎自分たちは差別するのではなく支えあっているのではないかと思っただ。</p> <p>◎差し入れ、会話で元気を送ってみたいと思っただ。</p> <p>◎オリンピックに関して、医療従事者の方々の話を聞いて、今行うべきではないと思っただ。</p> <p>◎ワクチンのお金も使われない、何より、ワクチンを打つていない選手が出てくると不公平というのを感じたため、行うべきではないと思っただ。</p> <p>◎ワクチンの存在の大切さに気付いた。</p> <p>◎ニュースでの報道が今起きていることすべてだと思わず、情報を冷静に受けとめることも大切だと思っただ。</p> <p>◎自分の進路に関する考え</p> <p>◎私は医療系のお仕事をしてみたいと思っただが、私は今回お話ししたてくださった医療従事者の方々のような使命感も、特出したやさしさもあるわけではないので、本当に自分になれるか、考えるきっかけとなった。</p> <p>◎「働く意味や目的がお金」ではなく、地域や世界への「貢献」だからこそコロナ禍でも働きたいと思っただ。</p> <p>◎私には看護の道に進みたいと思っただが、コロナウイルスの流行で少し気持ちが揺らいでいた。しかし、医療従事者の方が毎日頑張っていることを知り、私もたくさんの人のためにサポートしていきたいと思っただ。</p> <p>◎日々のモチベーションについて何ったとき、予想よりも私たちに身近なことだったため、驚いた。</p> <p>◎授業だけが勉強だと思わず、日ごろからさまざまなことに触れ、受け止めることも大切だと思っただ。</p> <p>◎今私たちが学校に通うことができていく環境の感謝の気持ちが強まった。(鈴木綾夏)</p>	<p>と感じた。</p> <p>◎今以上に医療従事者の方々へ感謝するべきだと思っただけでなく、自分が感染してしまっている中で働いてくたさっているのはすごい勇気がいることだと思っただ。</p> <p>◎自分の認識の甘さ</p> <p>◎コロナ予防をして入れも心のどこかで私は感染しないだろうと思っただが、誰でも感染するリスクがあるということを知り、改めて思った。</p> <p>◎自分や周りの人を守るための対策を怠らないようにしようと思っただ。</p> <p>◎コロナウイルスは他人事ではないことを身に染みて感じた。</p> <p>◎今までの自分の行動が無責任だったと感じた。</p> <p>◎コロナの怖さを改めて実感した。</p> <p>◎常に危機感を持つていたい。</p> <p>◎コミュニケーションなど人と人の関わりの方に大切さや、今後どのようなことになった方がいいか分かった。</p> <p>◎発信していくことの必要を感じた。</p> <p>◎精神面のケアの必要性がわかった。</p> <p>◎自分たちは差別するのではなく支えあっているのではないかと思っただ。</p> <p>◎差し入れ、会話で元気を送ってみたいと思っただ。</p> <p>◎オリンピックに関して、医療従事者の方々の話を聞いて、今行うべきではないと思っただ。</p> <p>◎ワクチンのお金も使われない、何より、ワクチンを打つていない選手が出てくると不公平というのを感じたため、行うべきではないと思っただ。</p> <p>◎ワクチンの存在の大切さに気付いた。</p> <p>◎ニュースでの報道が今起きていることすべてだと思わず、情報を冷静に受けとめることも大切だと思っただ。</p> <p>◎自分の進路に関する考え</p> <p>◎私は医療系のお仕事をしてみたいと思っただが、私は今回お話ししたてくださった医療従事者の方々のような使命感も、特出したやさしさもあるわけではないので、本当に自分になれるか、考えるきっかけとなった。</p> <p>◎「働く意味や目的がお金」ではなく、地域や世界への「貢献」だからこそコロナ禍でも働きたいと思っただ。</p> <p>◎私には看護の道に進みたいと思っただが、コロナウイルスの流行で少し気持ちが揺らいでいた。しかし、医療従事者の方が毎日頑張っていることを知り、私もたくさんの人のためにサポートしていきたいと思っただ。</p> <p>◎日々のモチベーションについて何ったとき、予想よりも私たちに身近なことだったため、驚いた。</p> <p>◎授業だけが勉強だと思わず、日ごろからさまざまなことに触れ、受け止めることも大切だと思っただ。</p> <p>◎今私たちが学校に通うことができていく環境の感謝の気持ちが強まった。(鈴木綾夏)</p>	<p>と感じた。</p> <p>◎今以上に医療従事者の方々へ感謝するべきだと思っただけでなく、自分が感染してしまっている中で働いてくたさっているのはすごい勇気がいることだと思っただ。</p> <p>◎自分の認識の甘さ</p> <p>◎コロナ予防をして入れも心のどこかで私は感染しないだろうと思っただが、誰でも感染するリスクがあるということを知り、改めて思った。</p> <p>◎自分や周りの人を守るための対策を怠らないようにしようと思っただ。</p> <p>◎コロナウイルスは他人事ではないことを身に染みて感じた。</p> <p>◎今までの自分の行動が無責任だったと感じた。</p> <p>◎コロナの怖さを改めて実感した。</p> <p>◎常に危機感を持つていたい。</p> <p>◎コミュニケーションなど人と人の関わりの方に大切さや、今後どのようなことになった方がいいか分かった。</p> <p>◎発信していくことの必要を感じた。</p> <p>◎精神面のケアの必要性がわかった。</p> <p>◎自分たちは差別するのではなく支えあっているのではないかと思っただ。</p> <p>◎差し入れ、会話で元気を送ってみたいと思っただ。</p> <p>◎オリンピックに関して、医療従事者の方々の話を聞いて、今行うべきではないと思っただ。</p> <p>◎ワクチンのお金も使われない、何より、ワクチンを打つていない選手が出てくると不公平というのを感じたため、行うべきではないと思っただ。</p> <p>◎ワクチンの存在の大切さに気付いた。</p> <p>◎ニュースでの報道が今起きていることすべてだと思わず、情報を冷静に受けとめることも大切だと思っただ。</p> <p>◎自分の進路に関する考え</p> <p>◎私は医療系のお仕事をしてみたいと思っただが、私は今回お話ししたてくださった医療従事者の方々のような使命感も、特出したやさしさもあるわけではないので、本当に自分になれるか、考えるきっかけとなった。</p> <p>◎「働く意味や目的がお金」ではなく、地域や世界への「貢献」だからこそコロナ禍でも働きたいと思っただ。</p> <p>◎私には看護の道に進みたいと思っただが、コロナウイルスの流行で少し気持ちが揺らいでいた。しかし、医療従事者の方が毎日頑張っていることを知り、私もたくさんの人のためにサポートしていきたいと思っただ。</p> <p>◎日々のモチベーションについて何ったとき、予想よりも私たちに身近なことだったため、驚いた。</p> <p>◎授業だけが勉強だと思わず、日ごろからさまざまなことに触れ、受け止めることも大切だと思っただ。</p> <p>◎今私たちが学校に通うことができていく環境の感謝の気持ちが強まった。(鈴木綾夏)</p>	<p>と感じた。</p> <p>◎今以上に医療従事者の方々へ感謝するべきだと思っただけでなく、自分が感染してしまっている中で働いてくたさっているのはすごい勇気がいることだと思っただ。</p> <p>◎自分の認識の甘さ</p> <p>◎コロナ予防をして入れも心のどこかで私は感染しないだろうと思っただが、誰でも感染するリスクがあるということを知り、改めて思った。</p> <p>◎自分や周りの人を守るための対策を怠らないようにしようと思っただ。</p> <p>◎コロナウイルスは他人事ではないことを身に染みて感じた。</p> <p>◎今までの自分の行動が無責任だったと感じた。</p> <p>◎コロナの怖さを改めて実感した。</p> <p>◎常に危機感を持つていたい。</p> <p>◎コミュニケーションなど人と人の関わりの方に大切さや、今後どのようなことになった方がいいか分かった。</p> <p>◎発信していくことの必要を感じた。</p> <p>◎精神面のケアの必要性がわかった。</p> <p>◎自分たちは差別するのではなく支えあっているのではないかと思っただ。</p> <p>◎差し入れ、会話で元気を送ってみたいと思っただ。</p> <p>◎オリンピックに関して、医療従事者の方々の話を聞いて、今行うべきではないと思っただ。</p> <p>◎ワクチンのお金も使われない、何より、ワクチンを打つていない選手が出てくると不公平というのを感じたため、行うべきではないと思っただ。</p> <p>◎ワクチンの存在の大切さに気付いた。</p> <p>◎ニュースでの報道が今起きていることすべてだと思わず、情報を冷静に受けとめることも大切だと思っただ。</p> <p>◎自分の進路に関する考え</p> <p>◎私は医療系のお仕事をしてみたいと思っただが、私は今回お話ししたてくださった医療従事者の方々のような使命感も、特出したやさしさもあるわけではないので、本当に自分になれるか、考えるきっかけとなった。</p> <p>◎「働く意味や目的がお金」ではなく、地域や世界への「貢献」だからこそコロナ禍でも働きたいと思っただ。</p> <p>◎私には看護の道に進みたいと思っただが、コロナウイルスの流行で少し気持ちが揺らいでいた。しかし、医療従事者の方が毎日頑張っていることを知り、私もたくさんの人のためにサポートしていきたいと思っただ。</p> <p>◎日々のモチベーションについて何ったとき、予想よりも私たちに身近なことだったため、驚いた。</p> <p>◎授業だけが勉強だと思わず、日ごろからさまざまなことに触れ、受け止めることも大切だと思っただ。</p> <p>◎今私たちが学校に通うことができていく環境の感謝の気持ちが強まった。(鈴木綾夏)</p>
---	---	---	---	---	---

考察

講演を聞く前と聞いた後で考え方は変わったか？

今回の対話を経て、コロナウイルスに対する私たちの認識の甘さを思い知らされ、衝撃が大きかった。逼迫する病院についてテレビのニュース等で情報を得ることはできても、直接医療従事者の方の口から事実を聞くということは、そうそうできる経験ではない。また、ニュース等で世間一般に流す情報は、病院の状態を示すすべてのものではないだろう。そして、「クラスターが発生した」という事実の報道があったとしても、クラスターがなぜ発生したのか、その後どうなったのか、まで放送することは極めて稀である。もしかしたら、放送時間上カットされている部分や、世間一般には言えないような付度も発生し、正しい情報が公表されていないのではないかなと思う。このような状況下で、酒向先生はじめとする医療従事者の方々が、桐朋生のために本音に近い言葉で説明してくださった情報は、テレビ等で報道される内容よりも鮮明になるだろうし、私たち生徒の受け止め方も変わってくる。クラスター発生という、世間でいう“失敗”を私たちに公表してくださったことで、コロナに対してもつべき“恐怖心”や実際の病院の“過酷さ”など、身をもって知ることができた。この経験は、これからの社会を担う私たちにとって大きな糧となったことに間違いないだろう。(鈴木綾夏)

以下、上記の“考察”の英訳である。多様性が求められる中、学園内や国内だけにこの内容をとどめず発信したいという思いから、世界の公用語としての英語の翻訳を試みた。

Our hospital has treated many of our patients using a method called brain rehabilitation therapy. However, since the hospital infection occurred, we were forced into some harsh days for about a month and a half. Despite taking measures against infection, the reason why they could not prevent the spread of infection was due to the rehabilitation method which includes many contacts. Also, the lack of knowledge of the virus was the cause of the spread. Going through this period was tough both physically and mentally for the staff, but they have overcome the harsh situation by communicating with each other and trying their best to stay motivated.

This lecture gave me a strong impact and made me realize the lack of awareness on coronavirus. We get information of hospitals that are under strain through TV news and other mass media, but it is a rare experience to have the opportunity to hear the facts directly from the medical staff. Also, the news reported to the general public may not include all the information of the hospital's condition. They may report the outbreak of coronavirus happening in the hospital, but it is rare to explain the cause and how it recovered afterwards. It may be the lack of time the news has to report the information, or it may be confidential information that is not likely to be announced. Under this circumstance, listening to the real voice of a health care worker like Dr. Sakou gives us a clear vision of what is really happening, and will change our view and make ourselves receive the information differently. Not hesitating to give us the information of an outbreak in their hospital which is generally viewed as "failure", we were able to learn what we must fear of coronavirus and know how severe the condition would be in the hospital. There is no doubt that this experience gives us something positive for us who are responsible for the future society.

We learned and have gained many thoughts through this lecture. The lecture was mainly about what happened within the hospital, but from this information, we gained knowledge of what coronavirus is and what we should focus on in our daily life. Some of us were given thoughts on the career path after graduation. There were various impressions, but we were all determined to make use of this experience in our future. (櫻井馨子)

添付資料 8-J ボランティア活動写真

生徒と教員の共同企画 ちくちくボランティア



生徒と教員の共同企画 地域清掃活動



環境グループ Bye-Bye plastic bag in Toho



生徒と C20 Summit Japan2019 に参加



C20 議長 岩附由香さん(桐朋女子高等学校卒業生)



生徒と教員の共同企画 選挙啓発ボランティア



生徒と教育の共同企画 模擬選挙ボランティア

